Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM Kodak

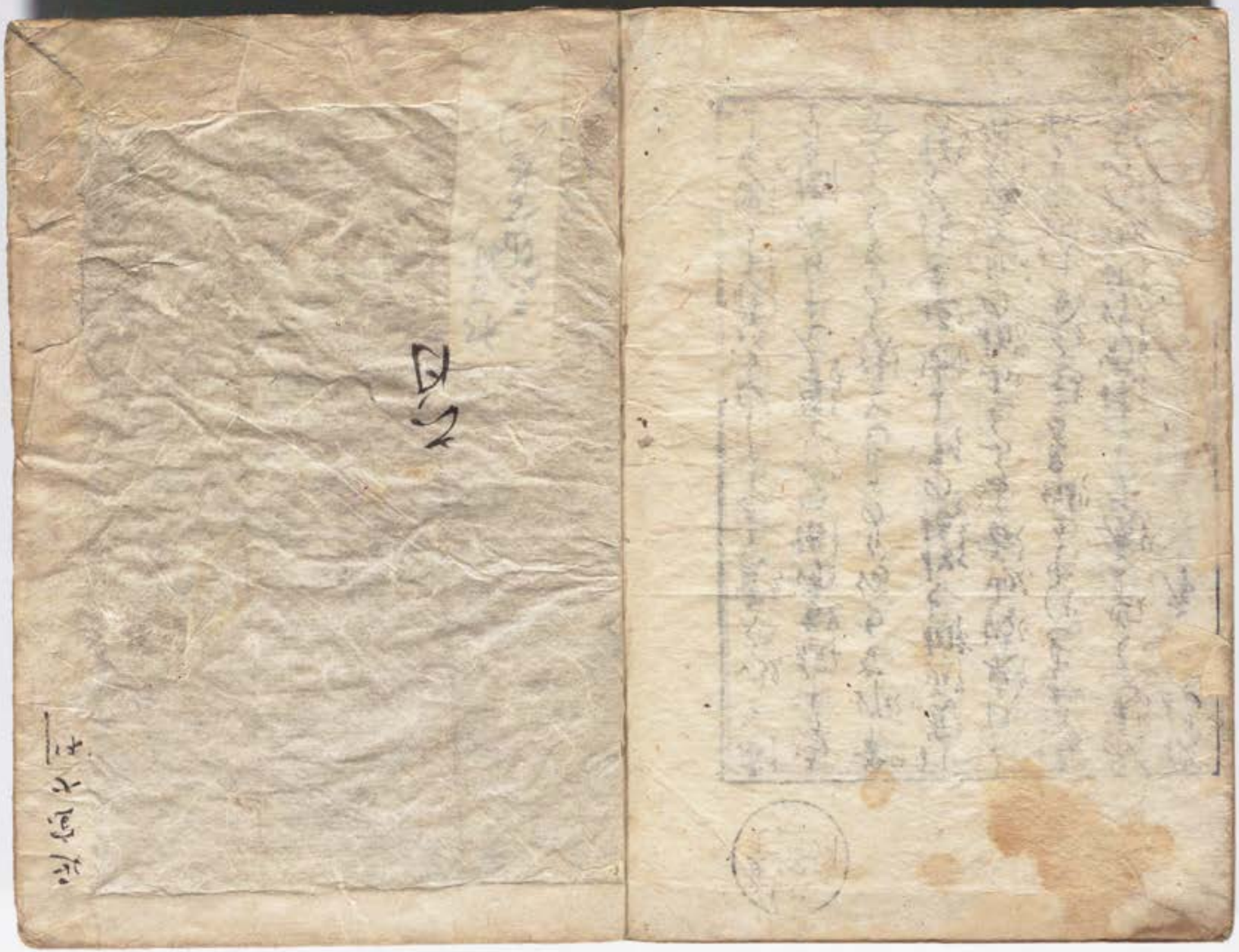
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



江州
金澤
文庫

松梅枝序

光孝天皇世に廣く一体歌作詠物記の友
海人の手すさびに作る詩文は巧みなる
東坡山谷ふるを小指の角と嘲弄
し菅丞相を松梅の下に迎ひ入れ
業作なり何のものの色と淡でらをとべき
さ〳〵相交清給ひ人と導んきめの橋多と
慮を分く〳〵實とさ〳〵しむるは花ふう寓言

雪〳〵も沒種古代聖は蓄なの大意とし
且輝清の端を見るもされば老和尚は
古人とは人〳〵の意をつかふ
と嘲を盃りて唐海き道に首をけ打込生
死の海を押分て浮世の波に棲る
落波とのうるた心を深して拙さ
云酒を〳〵枝打垣のうちなる作の蘭の素葉
を清るとて事は書あひもるれは教醫者

扶揚投第一
竹東不食貪樂
一休竹林和尚對話

二ゝ巻
不動明かゝ志ゝら
悪女の死ま
不ぎふ死明策
情強法も
三ゝ巻
猿が池殺生の接白

稱し家と氏称とあるべく
當話よしまるしの外
河豚付し咒
四ゝ巻
嶋田ゆて竹無手柄
ゆしゆし狂言
一休之者と問答

一休禁ゆて絶入
淋病の妙薬
五ゝ巻
竹無仲人口
鼻ゆて下の療治

六ゝ巻

竹ハ秋ゝまひ云

竹秋夏想

付俗の雅世

大拍板歌の図

同源氏縁語

松拍板歌第一

竹ハ不食貧楽

日ハ世ゝ

竹ハ秋ハ系田舎まで湯とけきけ

ものかたりが利根後悔

ゝ次私ものゝ

たれとも年のたふ

の月ゝ

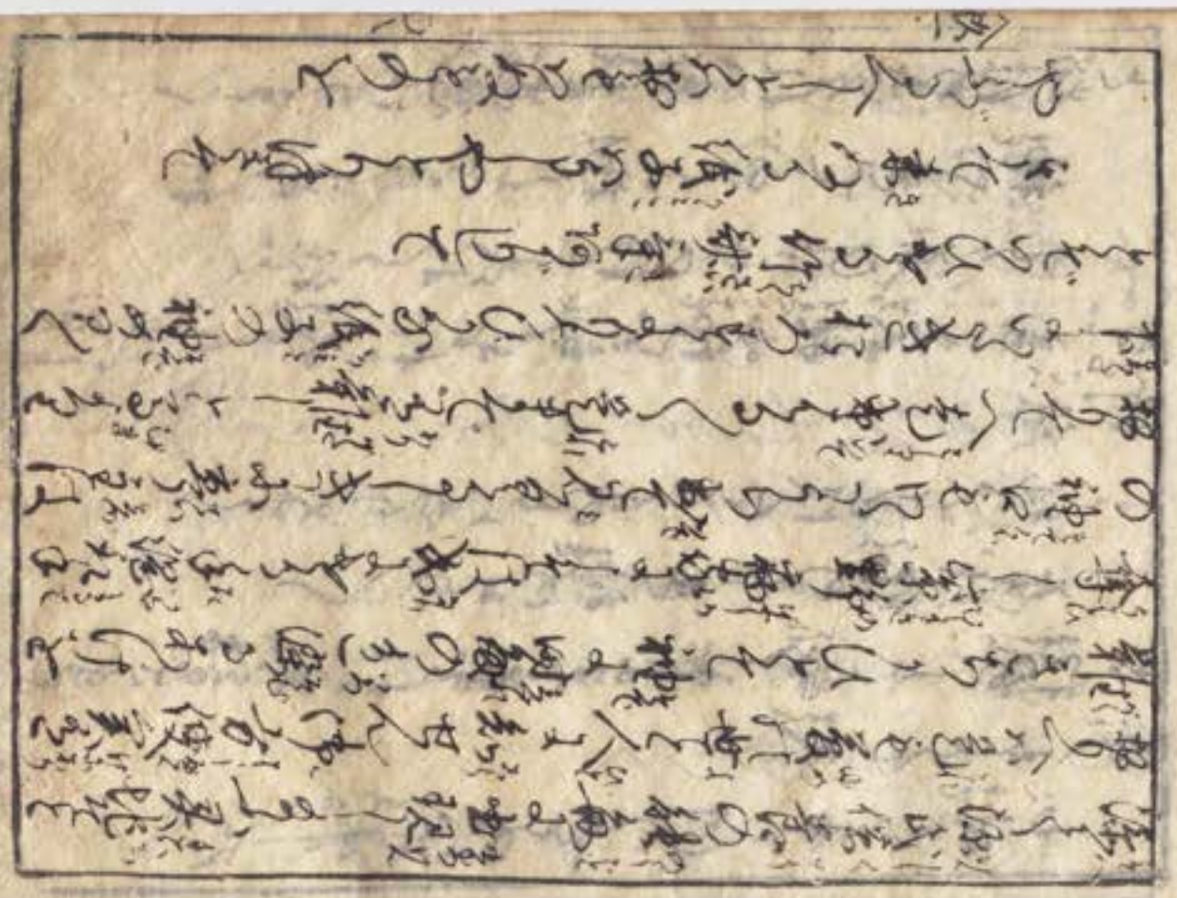
ゝ

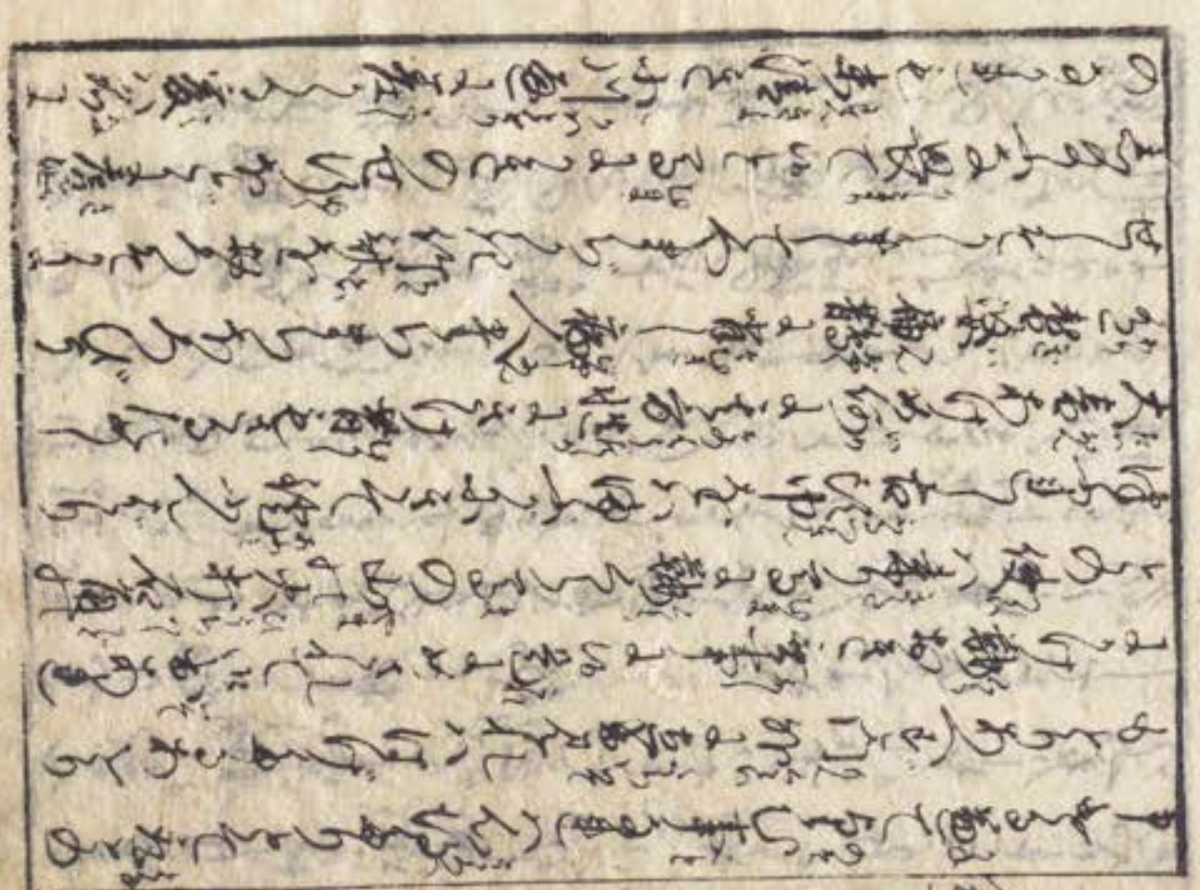
ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

彩色のしたにかの年巻の巻うわ[illegible]
なるゝ後代おぼゆ[illegible]みの人只一人[illegible]
家内居[illegible]業師の十二神[illegible]
十二月の[illegible]
[illegible]日に送るまよもるゝ紙ども白[illegible]
まもしとのふるれハ[illegible]ハ腐[illegible]
寒[illegible]
た[illegible]の[illegible]
やゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

[illegible]
肌[illegible]
[illegible]
[illegible]





とゞまりきこえれハ新宮を感じうまつる
神やまをてらすよ和しをそうす神
まつがゆひしりのけがるへわゝ祓ゝ
をゝとゝとゝ天神少神とゝ　きれハ又とりの〳〵淡
竹祭
祓ゝうまはらうゝとハきりまつる
をゝ祓ゝしき神のまりゝ
と祝ゝして　きよ又ゝきれハ新宮をうま
をゝをゝて又
少神又ゝまつりのゝきの八苦和乃

竹祭後之の祭ゝをわりきれ
神より下はまうゝ又ゝまつり
わるゝ口ゝうゝ祝ハゝ
とゝひてゆんとせしとおゝとめて新宮
ゝをゝひハゝゝのへをたいとと
やゝをゝの八のひまのまふゝ
女房又竹が神をひゝ〳〵
御神宮ハ今まゝ和りゝまつまで
月をはゝてゝもゝんとゝおりふ

とらひくわうそくを見えをれハ竹林も流れをこ
あるゝとき立ゐりて　神くふあるゝものを
恨とびやまて　歌よくらるゝんゝて悔きれ
こうら笑てうわ光つ脳どかんうこゝろ着病
のとのとゝ竹林うゝをはくくなゝめ
右きるう無きめゝる神ゝく扇をふうめし
ゝくゝり抜きるゝ扇ゝをゝあへをわた
てゝおとそゝ人ゝ神よそりうきこは
いうるゝきゝやさきたゝへゝるの事

ゝとゝ紀ゝのゝとゝいへハ竹林ゝて山や豚ゝあ
ゝりてゝをゝそりゝぎゝるゝて山ゝんゝとゝまゝるゝを
そはゝをゝゝとのゝどゝもゝをゝて竹林ゝまゝるゝハ
ゝのゝとゝ紀ゝゝやゝ脳ハ怪ゝよゝゝくゝるゝものゝをゝいふ
いやゝゝいゝあゝるゝまゝゝしゝゝて少ゝもゝいゝまゝゝゝゝを言ゝ語
ゝをゝえゝるゝゝてゝを一ゝ度ゝ逸ゝゝて結ゝまゝゝと歌ゝく不
渡力ゝ指ゝゝのゝて又ゝ見ハ左右ゝ豚ゝよ豚ゝすゝこゝやゝゝゝり
竹林ゝ後ゝゝゝゝ

年後ろ[illegible]と[illegible]ふ義[illegible]と始つ[illegible]のこのもの
[illegible]にてとハ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]りて[illegible]て竹[illegible]懐中の小袋[illegible]黒[illegible]を
[illegible]め[illegible]のとゆ[illegible]わ[illegible]ハ綿の[illegible]を
[illegible]心して[illegible]牧[illegible]と[illegible]
のこ[illegible]ま[illegible]ハ[illegible]
[illegible]茶[illegible]ハ[illegible]
時竹[illegible]の[illegible]と[illegible]
そ[illegible]ハ[illegible]
青[illegible]大[illegible]の[illegible]業[illegible]園[illegible]と言

[illegible]ま[illegible]ハ[illegible]
ざ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
大[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]虚火[illegible]より極りて下部より火と燃おこりむつく
のごとくして実火といけおけハなし後ろ[illegible]とそ
ろうよもろ〳〵横ゑと打音と老こそほめ
よをるまて竹鉄[illegible]りしわとわくとそもあ
ろ〳〵ものゑ[illegible]性のぬしの[illegible]の神の御ろ
とそまいろ[illegible]より脚をとろしれるろ[illegible]時を
わりしろとして[illegible]るものと[illegible]
みくろるくろうとさ[illegible]大ゑとろつくわと
ひよをろ[illegible]
[illegible]と見ハさろふ見くゑ[illegible]

物のちりひよおろうもゑろ

一体竹鉄初[illegible]射而

ろくて竹鉄目さ[illegible]きよ[illegible]ろきろ[illegible]心
をおとゝ[illegible]けおをらく日なよ[illegible]そは
ろと[illegible]覚〳〵おゐれ[illegible]ハ[illegible]
ふを[illegible]わひ[illegible]門のろんぬきとろ[illegible]三ろ
世界と一目よをろくろ大の眼よ[illegible]
とゐるハをんろのとをを[illegible]
まを一体の方へそ[illegible]先大[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

牧牛のうはくこころもさんてみふと
人のまましいふあをう
傷をそこをせきこうあれしこうくそあいし
らつまめる
をいはゆしひそのいろきときりくべて
をのまをうしをのやけがくけ
叶つ白よ竹茶をはのおきてうくくとる
つき胸さうきをさをとうあしてつ作をを
をぐくこれはを」やよりを刈都あ刈作をつ下
く氣沸方よあて法猫れ蓋よ刈りくゆ水

思紙の沸湯ゆり先行はれはれ作くくは家
てい年余ぐくりしつ休和当作ちくはおり
まきくどや茶ゆ影く宿生の毒者とは
茶紀の先よけくくもしを茶師はもとを
けり製茶袋の前とたとをどして沸中よ
その名とはし竹茶とよがまいハをくのをを
揺ゆるゆくきふ如うりあれ知ふ浸ゆ濃
わけて沸ゆ影ゆるをとをどもりよきを
和尚ををくをり矢はうをるまび姫よづ
らきは口上を茶彼收くくを

義の世よ對死のふ所にるひいつぐ
いさ枝ついく一体歩行
とのあひたりをれば
まなよないく後ぜけく教えてまたると
いひて作法をを
いと忘れ百びとをけう改よるとん
体とこく と知ひ繋ひく繋ちを宗教人の
ちををををちち事唐へ友たひて所者は奥徐
などいろび知日ゆようろうとしろ之泉

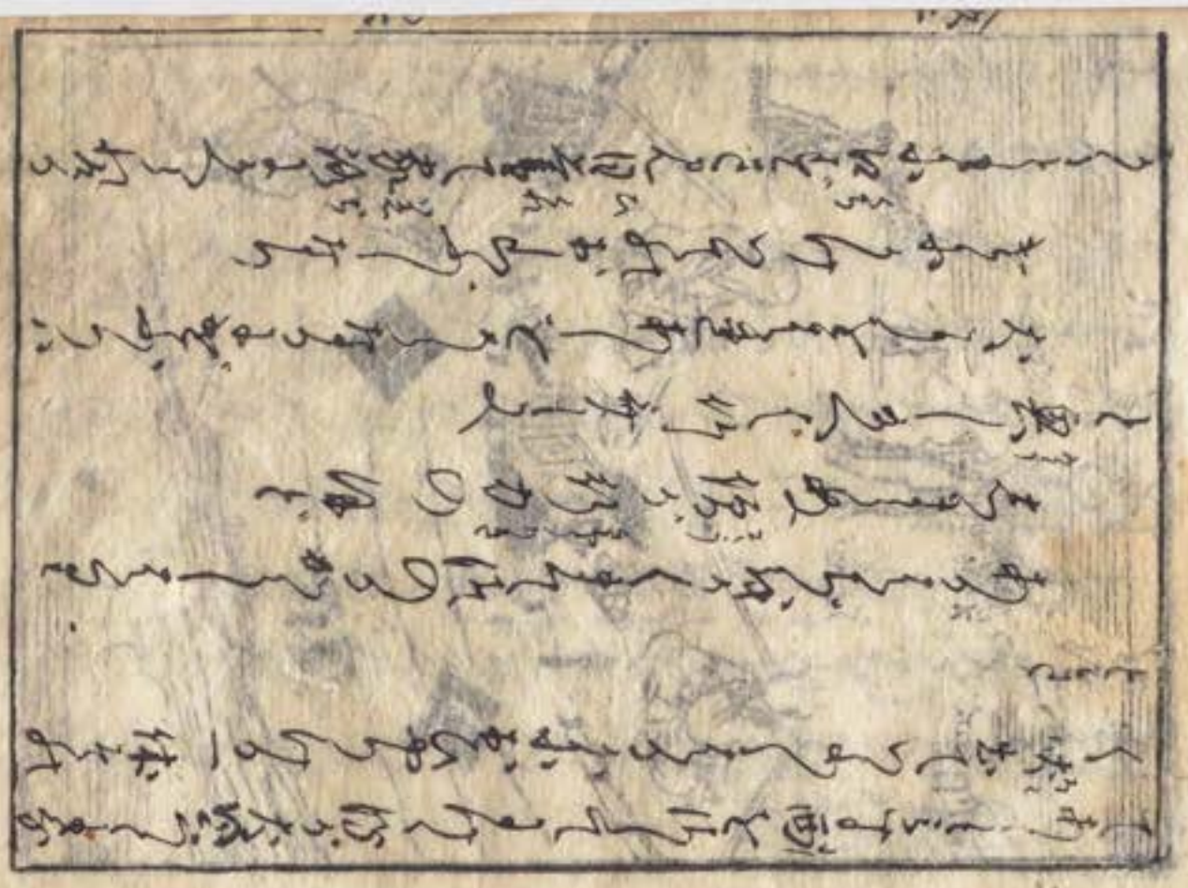
江州長谷寺見

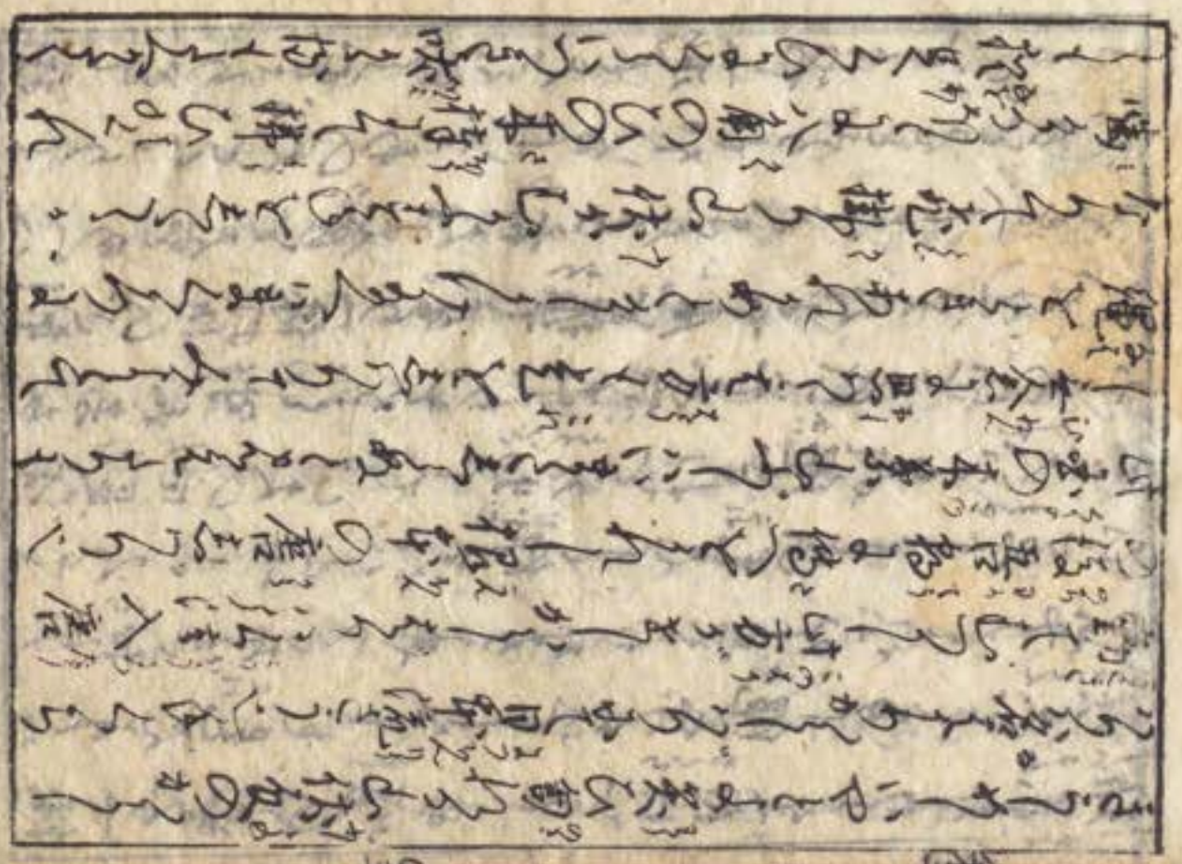
江州長谷寺見

不動のかゝとちり
一体和尚と行法師申法師を堂小門あとさへ
ちをとをてんしををなるこがりるまたいさや
てうちつまうかき出のひ京じ年幕打也
ゆをろを者の言よ不類先然ちりをろ眼二扇
ゆては個弦のをくにひをりをを七人おをりをろ
大山外をりて法物といひて見をくくしく咲さ
てをりをを一体も行安と一騎の花をおをろをさ
きて三三人をちをとひかをり伝法をををおをれ

てそをるるあて所ありかつ八尾一むれんえを
見たさあ所をもとめくちびりくゆきよのうんと
宮ひきる山伏をとんりくるさよあをといくせ
下手しく黄むすび光ぬ玉ぬ陀羅尼をとり
見しりくたて玉あやをとるへぬきとくとくく
ちるしくをとりをり一体作けり八日市尾八長ち
をあてくちぬるもあれりれを骨ちすす
八幡海へ八ぬしれまりとてを拍て笑ひあふむ
伏面目と笑ひくくバをくりてんをくらへバ一体
のいくくどくふもりをされくばなくぬまてをもて俗へ

ここのとをる中一疋もんえ海くをさりとて被
ひかとんをぎりくいかいないてあのだとくりて
ひんをへくそくんをなりあたよ食とんをのへバ
くるををくるたよや尾と振てをり一体ひさ
おくるひとりれてをやをきくりをを時あるち
三三人八ちりれ縄されと元出てしたの口見ぬ
ひくををくまくひをんくく作をれバ山りいうて
いふやくそれがかくをぎりをくやつくをきにり
庚云とをる縄をりとしをくをを見んくしバ
相手をかりをを月口とし為ひりのをる一体





恩女の報ゆ

[illegible]

と作兵衛宅へ入て事あらくろうひとりさてか
しまくしく行末の[illegible]を祝して勝[illegible]の方より
女の[illegible]ゆえ[illegible]れ[illegible]いろ[illegible]
よ作兵衛[illegible]ねて[illegible]
はすぶ[illegible]へ[illegible]
[illegible]なる[illegible]女の[illegible]
[illegible]の[illegible]年[illegible]
[illegible]や年[illegible]

[illegible]は[illegible]ゆ[illegible]ふ[illegible]流[illegible]生[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]く双眼[illegible]ひ
鼻筋[illegible]ひ丹せく頬せんいの[illegible]ま[illegible]て[illegible]ふ下[illegible]
[illegible]ありて[illegible]ぞ松[illegible]切門[illegible]ありとも[illegible]
はひよりやまさん[illegible]の福神[illegible]
[illegible]ふ女[illegible]よ[illegible]の[illegible]河[illegible]野ひて[illegible]の[illegible]
[illegible]よくり中[illegible]のひ[illegible]と[illegible]のもく
なる間[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]

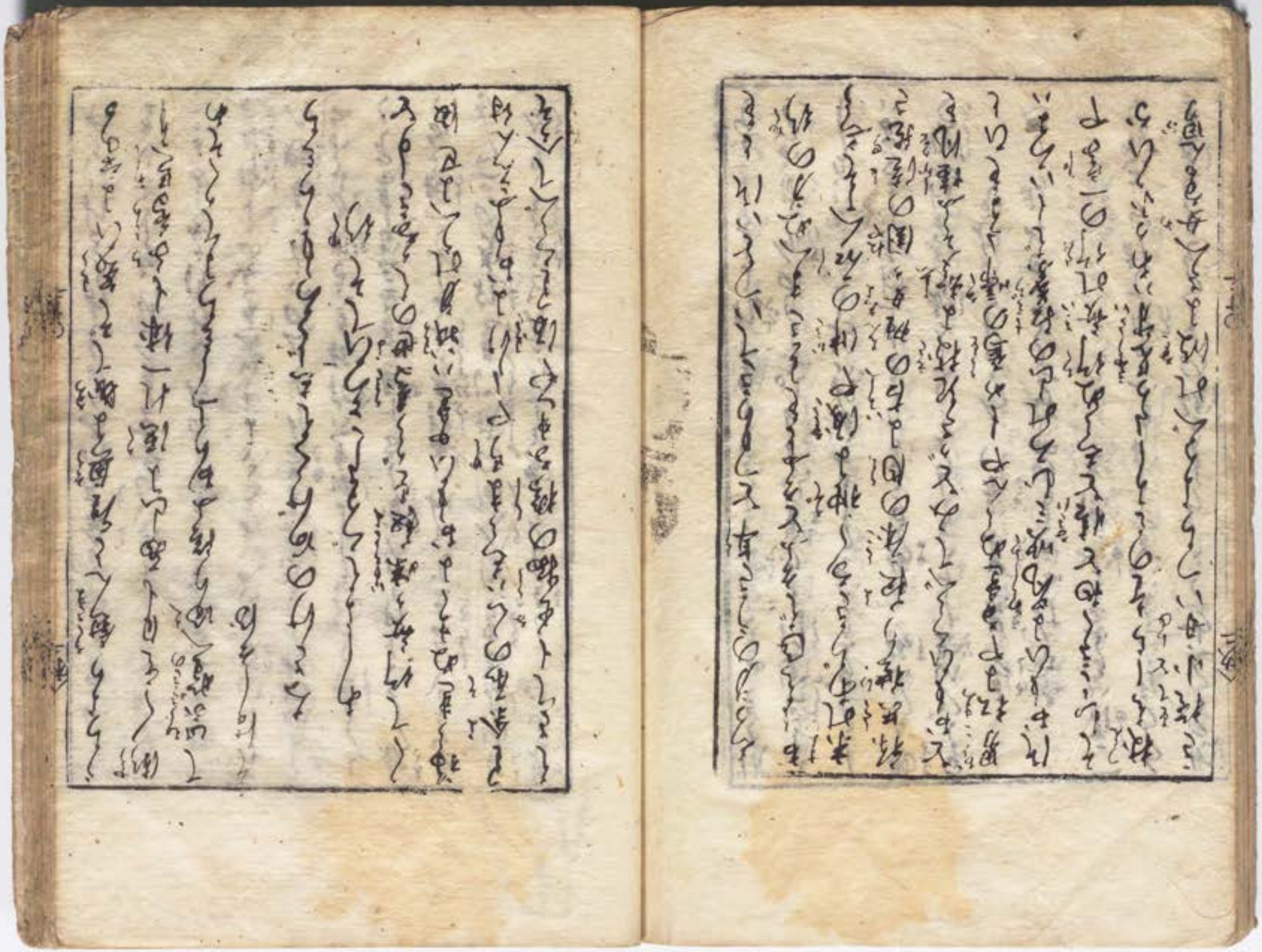
[illegible]ふ[illegible]て一体とさやりめるそのくつきハわくら千[illegible]の
[illegible]めるよ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]と一体奥とさまてあ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]れハ中[illegible]方よ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

生れ人若殺生を修ぐし物欲の心あるべし物欲
動いて動くときは殺されまたのみ殺されば殺
んかりてもそこは作業の
にしら物よりひとり身れるかは産屋へはせらつて
きるときみが日まで肌なんと丈夫なくされと花
とかりしまや三十余年過れば沙と組て岩の波の
とのまのこうまみくは山の穢らを洗て名ふの今こ
そ縁るめいまくんをてはなるてそもなる
てうしとひつくさしをたの六七歩ばかりいりてつき
しにたてそまつてせけるが飯とうとうとそこ
ふ
やはりこれ女は人陰三法よ墨まれとんとんぐら
とこれを申てや法仏のとこれのえ
るるまるさはるとこれは女人とこれ女人
ものとれば百生の
はやはく汚れるまとてんは男汁あくく悩る
く云絶の所のうまの曲事をとそいうよ
うう女は落その見かしてそとそこれ妻人へ
とたりしやは雑れそやたすの主人の味噌と
只一服もそもうこうくく遠より年久へ

しきつもりハゞ分るれば仙合数縁のなりつを
結ぶ人きゆたりゆ[illegible]れ[illegible]ふ[illegible]て遊わされ日は
さめるう小神とぶ女ゆ聞くの帥よしきとれ日り
男小賞やれ[illegible]ゆよ[illegible]きを教つきて今くやや
[illegible]袋帽子ゆ中[illegible]れまてひとりのいもうとを
[illegible]ゆりとう目のあのこ途川の嫁とおもふ[illegible]この
ををくるもゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の分れ
くゆをゆ生ゆきゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ものうれさよくうゆ[illegible]ゆ[illegible]
とくとくゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

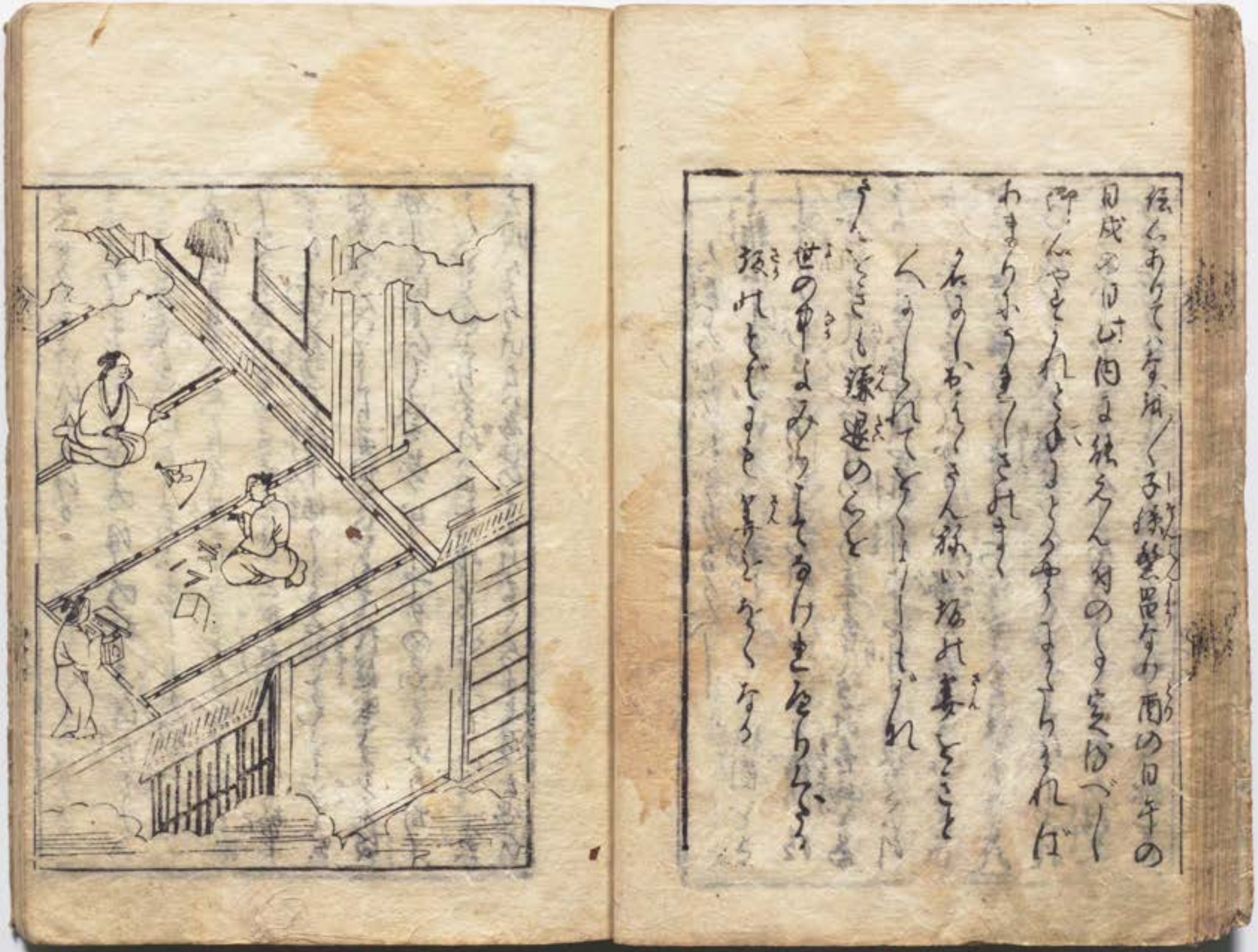
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆきくれハ無きゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
同伴れ[illegible]ハ山女男の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
伊勢冊の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
なきゆきよハ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

見よ、味はひうすくして白とよりて今
日のことを生ぜん人間の式は礼義の二つか
ゆとてこれ三去てこれ三抜平おのづから一和をなく
親しきもあるを常とす三不孝三不義
あるこれむりしは此世ハ花ばかりつき肉なくふる
を此のあるそのうへよりなるを人のいきりハ未魅の
ごとくしかるにあるをよりまた三の金銭財宝
の消うけてなを世をことりの名さわ代をあるよ人
いとかんとくらふいひやうまへハ竹ばかりなるを
かさの去りやか余れみるかもあるされハいさや



寅ときめて袖をしぼりてなぐ小袖
三途川まで流をちらす
くるひとてうの歌舞伎ぶりつくしぶりくさ
し後をれそくれるこれ小はうこの月のや
たとこそおもふこと出して祇園と人くよ顔顔
えんをあらてゆくかなるすとこそ見せやしく
えいとうるしくて
縁付といるまちうしろ姿
しかあるへもあるへしとおもふ
ちなげさ弱分ぞ長とさまし山ぶく

あるでゆくくるまれるむくんあちきケちいさ法の
ものの親世者体教をまうて京人老数の広利益ものあ
法りあるへまれとやぐくゆひ名ようひとうけ
おーろいあまぐうふまーまひろげつきうをれご
くなるちーと百通をうくをてけをぐひろ多ノ
笑をおそそぐ乃伸ようちきり兵ちく法よか
さひるう白むく黄むくあききむくひろまへよと
おそへとをこづくのうろ絆座楽ちくぐけよきぶ
しほあさてそうくへよけう仏あよなりぬれや
あるを女人設歌求男の法ちうの付分よ相夫とあ



伝ふありて八月廿八日より酉の日午の
日成の日は山田の社えん有のよし宮ばし
御しんやをうれさまよりまつりまちうれば
わまりふうまつりされまし
えんのおうさうさん祝い始れ妻をこと
くんのうしれてとくりしもしれ
うんとさも深遠のらを
世のゆよみうしてるけ主をちらぐら
祝ひもとしまもくなる

又女うくそいひさうなる
あるぎんこれをのはれもひかり
をかうさむしてよあふまもれ
あうひよめてさうて見布をくそうの出いにる
して之出ぬきるよ又ふト一三せ五のたして幣
とうて懐を錦足注下伽うしくうかいきくくくく成
ふうんぐうんいでうら女はていとして代延成ようか成
りくちひて又之寄おしりのるの多く流り出
きんとうせうちうれハ見ハ始と遠てつうの貪
古性なりはたハ面ひあうれちくもうを後五堀ひ

きのけたきまきまうり成くくふさハりくくてきまるる乱
うくくくしはたあけううれうまあやうきくくれるるる
縁組のうひ入一まえよるるくくくれ神をありそう人
風地震とうくくくを拾へとそつひうりけう女天きよ時
とうぶいや銭ホハ三十一車の金性ぞうりよ伽ここハ
あうくくぶすはたを家業とまうう方れ遠くうまくくて
世とまうくくきうやあきめくくれ妻五るくハうくぶ
ふうくくん百文ときたまぐくくてかくくくくはるハ
くくうくくうて咲てみて居さうけう女天あ一姫の妻
とくきううひくくくくと海うひよとうまと

して拍子つよく謡ハ浅妻を人まて踊とのこと
とも此法ハ戸ハありのまくなる正座と亀ようの人合
てしらふるまハ此よてし此色ちて夢求と仕出く
ちらけ女いもく脇をこえて拍子しさん玉う赤
よくろくしらさんくよ者云を此夢玉したら
いよ職ぐさるまハ木ちくわもふやこれよていざく
あらん拍子まを色拍とを正してまいつ者人と踊出
て行まるよ遠とひちしく脇ちくとひしとちくん
ちくよ浅てそをめきちる法下ちちとさる
をいやまて右ぐちさく此三世表とハ色云祝在お

まと云てこを言此と考分もれなりくんとちづめく
ちくよ先色云よて人の言葉とこちと狂言
の合作くしてく現在よ要如なる中まし代
女中ふんさハちくこ此をみくひ色の踏なち
男色の燒丸と種ちて生ちくこれしその秋
さるちく男のてしこ文男ふ口襲ぐちう先ちて
顔ぬけあぐり一生不孫の赤服あの通ちの伝とや
色こよ遠別ち男のあくきう拍対ハ狂言貶恵
の花よ法て未来文こを業因をひくこ此に考云
ちを色云故男様あとちち成よ面ハこよゆちち

狗の舌の異なるごとく今みてこそたそろ
ものなれば人性かはらざるとて女乃郎
とりあげ給ふ時これはまことにまこと一念成無異と
なりいちくまを殺さんぞと歯をくいしばりて親をあら
ゆるとくとおもへかはりなれ対法下
あらいそのの性のちがふこと如此
しかるに異性凡夫なりける
今一人乃美玉ゆくそいひけ
殺生をしてくらしたる異女
いろとし然しかるに

仏老不死の砂茶
おもうのことさ日蓮宗のありけるがつまくと
剣人としておさるるさく娘と成異女やりそのの時
かくくしい合けるハりしたそ会仏の教メ
くあく法利のはまとあるべし法花の行者の義
所小会仏のひさまへ会ハ見法唱ひ法題目
とはもとれさるとも成仏をうしまして阿梨樹乃
枝のごとくに死ってかるべとそこうくそや法師をへ
をと合はまのい食てをりわ義一体その家はまへま
ちやをとちらがうまとと異なのひてれろそろ

のくとよハさもとそ〻つ〻めと極て爪下のすゝいてこの
ごろりよ壱仏ちて様ろすてさるのいい様ものやうあとか
さらやと彼ものまちの小ふよ門のかさしゝとして
併のとりと知りよく掘かうしと拾てを行よ行て見
ちりの見ハ酒屋と知りと書ハ入て言りあり点あるとと
一体つゝくと走り書りひてどりの細そ引ごとゝへ伝
故そとゝ爪ふよ点ひりとざる様弟ハ幼ひよ伝しく点ひ
てふとゝひて法ゝり一体ゝるよ数十反却正言摩
会仏と唱へてごろりの見ハ決へくゝ言ひそれりあるゝ
見しを家知りの八見と焼くゝ点ひ言ゝり法よ法てゆ以

たやゝをくゝつ事ふるゝくそゝゝ人
どもいゝくゝ見でひきあゝそりふふゝとれ
逃ゝけゝろよやたやゝうゝけゝるゝくゝ伯くゝり
見るあれハおつゝくゝろゝあ法とゝひゝりけ新
どゝたきよおゝろゝきけゝゝりやそれゝろ
ゝりてゝきゝ拾よゝれそゝつりあゝきの法
ふなりゝゝとゝむ法伝系ゝゝくゝわゝれを場
ゝゝ会ゝゝゝちゝ代めゝ門ゝきゝよゝ人ゝのと
とゝゝと掘りゝゝゝゝとゝむ女房ゝりゝゝゝや
ゝゝ脇ゝをゝせゝのひそゝむゝゝゝる人拾

法然上人一代をのこの言葉ばかりをあつまりとりて
おしえ給ひしを法然上人の弟子
とおぼしき人々引聚りしをあつめしをあつめまとめしを
いろいろと作りまとめしをも年比のけい縁をれば
さそゆるしよりはらの法家八宗
まあらの給れうも公家かゆるあ東国の堂
たゞ地獄の念仏を作むるとてこそ
一首とりけるとりの
念仏をむなしくこそ
弥陀をあむ

とりひさられべよりあくを
ちたのしみ地獄よりあるこむ
もくもくんたゞめよあへこそゆけ
もて扇よまてをうやうこそ法へハ用ひて
ゆりしこんたゞめしをるれバかくらる
ちうまであこそ消と抜ひんちくしみを
抜して法死れりんう腹中よ入用含の利益を
かこうしくもそもそもふきう男ちさう抜び
いちぐくしの作ふりの外ハ分ハ八ヶ人の新女ましも
ちくちと変成男子則得成仏疑ひあしく疑ど

ひさしのみ分あるべきにそなへ給の
ぶてひえうきうきうにはらさるべき鐵墨をへれ
らぬうはとして花をく新光をつきぬけ須ふをと
ゆうすの物ゝとき飯はまをえてあつくしゐけう
さてハ南無阿弥陀の六字ハ清滅してとゞ仏ゝあて
あつゝまれるあいとまでさきゝなりとて六ことゝあ
とのまゝせてそうもまをていよ〳〵ちうにうつくゝる
いさしもきてらちとうあつくゝはみとまをへよを
が女房ふとくも花もくふあつまりゝ〳〵八会仏のいう
しゝう河をもとゞくゝよおもうてはせりうゝしまうを

やあるいくたしやあ無量寿経法華経をもめさ
ゝうゝまれあゝよ陳あゝらゝもおとゝうさ集り
あゝうてたしやはまくむゝくゝまいるをかハ
ん法ゝうまゝあゝ極へしひとまつあくぶてん
ゝ法ゝうまゝ極へしゝとゝうゝ女房ゝとゝハ軽ゝと
ゝ極へしゝとゝうゝ
いひてるきゝういゝとゝゝあゝまれゝうまれを
聲えんと呼てゝゝかうゝ法会をゝしゝとれゝれゝと
ゝゝゝきうゝ行法をゝていうやゝれ藤治を
りのゝえゝとゝゝて史ゝと三ゝうをゝ竹女経か
くゝ来ゝうゝれ極ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

綴禁酒乃歌と立後あるべきこと
とうや

あれくるしさまく三義拯の仏さま
祈よりけさけりよ奠加あるべのへ
怪強法も

くさろかさらはむるるの行安かもして一体
り出合例の天竜妙典とひ出してちひと
法ふりけるのりけるよ後八念仏を弥天
慶をとして唯て恵比をされどしあるよ乞拝
のしまりしあけるくまりてまりなるる

作らるくいる傍しさやりのるりあるしのきしる海
をそりしりる祝のそくみりしやりよりく 潮
神とるりつるればと文仏とまきくるりる
かくを日三まりの舟あをくよて世とまりる小僧
よていりりさはくれしもせるくくれ角しも
いりりる亀根りくくまりりくるりや小方 祝神
る九年毛賀るそて九年れあひさ賀小向ひ祝こ人
いるぬ肉亀ものるそ小向ひ祝こ人
て陽多陽えよて山里をこれをしりしひすまハ
ふ迦あの柏樹樹とるくくれ法仏とををあるくくまる

一字不流しうがうとつうぶ氣流ものまてくい出物
ふくらかして嗜吾をうまちかとちうどの吹行令
元生始へしやうろ名ちゆんの居ひてしつまふ
和ゆとりうち始へど柳ハみどうちいねまし月
月ゆとうまそいとあれど男まてれ法のとハまし
あれうしあうれまうまうまいうなまうまうまやや
ぐうれどうまうんとりうまけうこ体うりくまま
うひうひて
猛あうと止歌れ宮の戸とあけう
しやうまくくまて月とまぬうれ

くあてうくしうれど作ゆしうれ作ゆまうまう
ちやうごうまうまれとうしぬうやうどのの
どやうれうごうまうれ人まうう
とりひうりうしう男今ハ我とりしてりうまと
うううまつき城よくとうこうこひあう
うまう我方れしやうまれこうまゆんなうれ人と
まれいう粗くまうまうれうれとうんなう
ぬうしうまて
我ちやうれうまうまうまうていうまうう
うまんやうまうまん百八れ陳報

とつるのわるるはの既に脆よなりもんといへども
一味まことしめしたる方の宗旨しかの法縁も
みるんひとりかきんへばさらにさけんとて
ひとりなり色よりかえもおそるべきさ
ものて聞色しかるべし一二ちくの
業より勧なきとて病の悪まをとるべき
てあまたをしかれども結句ハ大庭しるして
ちやうきよりんん法縁又くしてしに縁
ひへちうきしるふそれ方の宗ものそうら
きへ深へ徹宗しあるときハ慶祥不遇の

ふるしまず善悪共の全体ハ自分のかり
色法なるもの自地に作れ色場とも又
し衆縁別寂光或別身成仏界分
しくしわまじ又ハ法華いの余経ハ去此不遠
己身の法性唯心の法性ハ法性地
云方便ハ又皆悉菩提平等無二無三其中祝
生悉是吾子何ぞ法華ハ法華しむるき
教ハ別法不定久遠ハ仏性成仏むて
しめんれん根本方事ハ皆元ちとて
くらちるきもれハかくらなわくして

くさくさとまがふくまもなくと
極野山数他と笑ひやうに唐人の家の拍
よハ今歴とつた大方はらはらていとて
めぐりあひやそれともわきめもふ
まちしとそをを胸の月かな

一條ふきてくらゐ[illegible]めて古歌よみそえ
人しれぬ[illegible]しをつきこど
○よふくるまれあらそひしは
くゐつまして分別ふかいとまれば行かしこう付
くる世の色をなすこと
[illegible]れしそ
くらんい
くらのやまひを

文庫

文庫

秋陽拔書三

猿の池殺生の拔ゥ

都のあよ猿ゥ池とそめかは流あり長八殺生禁
明ゥ山者よ淵とゝら猩とのゞゝ人ゝ[illegible]ゞ
奥渕よりたゞり岸の柳も波よあゝ泉流清く
ゝて八丈布れ流とゝり砂のゝ月と我ゝ
林もさるゞゝ猿ろゝ色ハ桃花の芳香の比ゝ
ゝ麦よ奥と来て曲あれ盃とゝゝ廣沢乃
秋とゝくゝあゝと死一條和尚ハ代ゝへ納涼れ
めゝ竹秋と猿の色猿ひさ海ぐれたのゝとゝなゝて

ふハたん天の雲をよとびあがり波をうつて飛龍軍
うを一出させひつていざや竹取の翁とともに
てしをよりハ数の多よ酒してさ実をんと作を
ものあるとそれ高くぞ竹取翁余れみる目もあるさ
まぐ作るとともふ屋敷をうげ一体のやしゆ
衣をひけるりあひて勇と迎てそさまをひけり
絵ばかり千里人乗りかゝり何もれなるぞと
よりひまをいかれ迎をなく右顧も作ぐ
るゝ後をさてゝ高よれ何れそれなり
作りんと三

村中のくとよりて是れば四よりとれとも
てくまなくよ捜よりてて探よりてて大勢
おのこどもてて山くくくまなく捜をとれとも
なる人三人まらなるあとたんへひろけ奥
とをもひて酒瓢乃軍へぞ入よる是乃人氏城
とんでうる田殺生禁断の地よまりりまくを
あうまのをそ家代まさし曲事うかれるめられ
とそとめきびうー体竹矢大きまおとうきあうる
殺生禁断のおとをもくもひ白鳥のすとをそんいう
色をれしあそをもうまぬれくも文よ使もいれを

それ白ふいしをそ城よくれくいる狩しくあき
くや縄をそ掛よりけう一体乱矢をうあうりを
あうみ作をういこそに怪おうき向れ仕法の上ふ
方今下を捜うハ必亡ぶ捜するまくを一大事乃
杉を乱しをそ内よ和ぬ悪人をくをを
ふ四ーをそ会なきこい猫ぐをくハ天神祇
力を法隆供の弾ををていとくくよ此奴ゆ曲
殺さをうや南無妙法天満王大菩薩門集く大
寺ひくを色おめを捜ふ村の老ともを服をを加う
結髪を破ーとなぐく詩神の祟天神なをとて我ふ

を測伏もろうのことを科のよれ科はへし書ハく
遠恨深く頭列蔵してこをしめ不思ん志とそ
をやりまけう一体と今ハ人ハくとど力蔵しまかくと
振ひあう絶抑絶命生死実よ充まハ今一度
練アとり命く勝の皿とをう作けうハ汝おとをれ
忍癒法智なう者とをよ生とて甲斐とをもし
をれども我く死して後悔をくさう痛しさふ
あうく後て笑をうなうされ戦宗の祖師よ
しそて海苦を啖ひて愛明拉瓦れ眼を開き依
のうらうべとうりてたよ悟瓦れ智者となり

始されでうず生れ悪傷だうも臭をとり香とれ
を食ねれたやうハおうとと夏百日れ乃花咲風夏
のいうていなく悪浮仏泉れ拭を形と立て三世の
法仏しう元祖をうくわことなし悪傷う拭をひ
のうに魚て奥祖一瓢よとり入てハ臭生花香菓
本ふた悪皆義仏と苦泉法わうふ又山林の鉄切
よいれを毒生義善徒ふと廻向ずうて仕をと
まハ殺生をうてべをう細かうされハ仏し九異乃
元生れたとをんとのちうんれ綱とを途川よとり
ひうきて古乃梅廻の元若ハをとうひをまよ

罷ぬるときゝ給ふれば座をとり給ハ
ぬ大綱よりかゝゆゝしく速に後に不淨なへまうこと
うゝゆゝしく常よりしくのとうゝくうゝみゝゆゝ
給ふとくゝ世給へやうきゝ物某と称ひしゝすこそこの
あらなれ乃ちよりてちやうハやりうこそハ綱ひく一
節ハ大つるゝ小さくの某しもゝよりとくへて実
おむろれ大海しゝ安系世界の浦をまてし
ゝ世給ふ則弥陀の浄名をむしゝ仏立一世の対
を滝間陸仏とゝしゝりしゝ未世の衆男女
長癩無智の衆経者とゝしゝハ唱ふるへし

ゝゝ給ひ給ふ仏ゝ世給ふ乃ちそれのゝ
を大法をゝ法をゝ世を渋渋ハ法ハ禅とゝ
業必死ハ難とゝりあゝ腸ハ細ゝ不ハとゝ
ぶゝゝ動てやまぶきあゝ人ゝ
五一系の者味ハれ天竺とゝ世記
ゝ資迦学法元満の明法ゝ
ゝとげゝゝ抑ハ一切ハ
ゝゝ無中一の文殊
妙法蓮華経ゝ人ゝ
角と脚下の云ゝ理南方

是ハ祇園海中唯善宣法師流罪と自愍し
給ふ嗚呼あさましくてうとく恐れを不知拙き凡夫
て佛のまことをもとゝるゆへよりて法然をいとうあるひ
てかゝる人類よあり百日の死ものもこの
及ぶもどもてすまさに人魔乃ち民衆仏性同妙の
法門をそしりて悪のかれ悪にはれ科に死すのを
なりをを小異れ今下といひてを所一眞の人るを
こゝろを長なるかゝ仏の戒よ。法滅を
教し或ハ仏の方とゝ心つゝ世とを生〳〵へ和滅の
傍分後し又と教し世とゝうを先とを人雖

の科ゝを出家ハ仏果の報ケをや況ま〳〵くるゆ刑罰
而此来世間此度よ流んてうゝ世更よをべをを
あゝ不後のゝ世やとそまを天ひゝのゝ人ハ生不ハ
りのとし何く為ん分の毛だちておそうくゝ
をゝ不三のをひをゝ〳〵ひをゝ〳〵いやゝかく
屋ゝの教者の此分よをゝ〳〵ゝ科ケるを科ケや
をもとりをふをゝ〳〵ゝ科ケをとを
ふる一体のゝうをてをたゝうよ世ををれ
をる仏法をゝ〳〵ゝ世をを滅〳〵ゝ為るとを
をりやをゝ〳〵ゝ世ゝ〳〵ゝ世ゝ〳〵ゝ世

一体ないくらいはなしてちくよりあがりもらをと
やうと大きくしてものすごいひけくはいしるまでよう
ひきうどもの所業とたりてそうみうなまして家
ひ　強いは物のうるめどみ状るけ作方くうまと花笑
ようひ　悪人よ場られまくもそれ耶と法弗
ほうと伝わ作はいよ花節ハて料よしうて正願
て元何よ法し

又吾朝の聖徳太子も寺院を興隆してあそこく遊ばして実をよして我ひ害ーーーーうんとそうちゑ
しも法天善神やいくようてあしらうし
ちりいよく佛教盛昌すりあれども末代の
凡夫まことあくれをまひ者は仏どれつしとはの
のこりうとなげ衰殘の御衣ととゝみ染乃麻ぬ
みよしうをくしまいていかとやうこれうも祈とゐ
衆のちまくうよとて方命とあしなしふ
くあ那り者りの功徳ちてこて我乃なし
まなうよを方そくふいかくみまんなうし

の
のうて仏法隆りしかも紀をべこそいまうし
してハ師井の乳徳しもまてかう濃まし
れ仏根やうて校ありあどてうの人ハ竹毎
そくうよ祈しそれどもいやく宮の奴原よ
とゝせんハ人事なうとゝしもうふ遠くん
されもい基く命ハ基ともおなこしのハ門あ
つまれ碑ざめよて天ちくうかををてふうハ出
おなどを加徳よん出紀神住こ保塔ーーーーし
てよいとゝ西公合歌さ徳ぎ里人ハとも毛とて
和く行勝の西事うれ法ぬかかとてうくしか

ゆてい性べうとてをうふ感涙ひ湯ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らせしめ給ひて九十日の間まことばの行後鋪出
修解脱の行を行ひ六十日発願して法華経の行を
を書写せ行なて一切法華の西方人とまてを成
よりこのひて五悔懺悔と唱たまひ
山中より毎世の人ばかりに付七夢の呪名と蓮の
涼れ八歩まてをらしらを居をたり落ちをを
飯をくれとし極りと書を毒を盛を王乃
もとへつかはさを閻王人をよ怪ひをひて地獄
をり出り五をたをの中より細工の名人あり
きれいをとをおさえて閻浮樹くいまを頂戴

山のいはをきをり元号らられすの呪と持ををて寿
王をよりを波をを十まをを結を名勝ををうて
三悪を吐巻とをうて鬼人の名石を名をを
の厚海怪童ををして怪面をををを玉二重を彼
巻を帝釈の森見城まて動宝をををくを解
ををやををうて怪和ををををををを
市れををををあををを大をを見を呪石ををり入
をを石ををり又四角を巻ををを入れを先をり
ををををを入れを海なり呪名をを名をて奇妙
変身れ呪をを抑は妙篇は変へ海りををいを

中無しう又高聖重としてよの義おれすあうて
山名れて中へ枠とうてうひうるものとれへ腰ようにし
て高買よ出仮しう今射ハ枠といひうくくなれ
くくさよハあうもそうれしうしうハけ中よあううれく
とうくあ無昌して大うひおうくていすうさ曲くと
絵ううくへいうくうくうくよひうくへ居ううおのくうくうくみ出
ていふ稿又山かうくくしはとあけ中西の名ハ物と
しやくうくうの後よあうくくくくうくうくと射竹矢さし
くくうていふううよし絵あうくくくくうくうくう

御里のものどもあつまりとん進つかまつれば生れの和
ちりぐれとて紙長てたびたまひたるこれ仏法の堂
をこしらへてしあるべきとて皆々八月十五日に祭らふ
ものの紙に書トのことなりけりとて五十のもの月ごろ
所々にあつまりてもり書にしたる死ぬ所の隣郷の里と
和歌をもて若男女よりたがいませけるを初めに日をもて家を
数をもて山谷よりあつまりて茅ふきの小堂をこめて
ちりぐれ堂とぞいひける一人宛五十あまり昭
をもてこれを書よりて三世の会仏法をあがめ
して点ぐいひなぐるもの勝れて事ちりぐれよ

色の堂より及て五百枚中の菓子出付て菓
子くばりもりしかどもとりて人数をよまてら
ずけども更よりもるるれば五百の口形をもて
ちやさしのものどもは小堂より集り大寄会して
和歌不詠者を去て俳諧中の一人うつ出て
つよう月かるるうちうさ泊の陸をもれうさ
るうさ泊れ面洗ろうとて少俳諧よ
をもてハ必月付ろうべくしてこれ
て成行をもてうちまれ元中の四よ俳をもて
ぐ仕りひさうもれ男人をもて

話家はあるとて陰茂せられより酒盛はなにとれと
ゆるをいて三五はみ位右叶まるそいひまりけるもの
対猫でるる女男をぐり出しつ指さかあるけなるこ
まごいいれそよ鉢ふハけるる色そうとみどいとしい
こめるるる抑ち郎よハ入ぎれとしあの役目おれ
ど動ぐうなりそれといまとといまよ先なる色そうを
つる名ゑを不去るるめ先菓指そうしをれけるる
てあるん百姓どをよいやかお名よてあ色どもう
きたるるく旨かおやらいかるしをるるるるり
るりてどるくハいをぬとくハ産中ものとも笑く

あく嗅恕なるるくうかいまくしを指すそれ色数
るハどといふるををるるる乾なるるれ産生ます分
のるるうあひにけるるるしるるるるていよ指ゆれ
それなる高まるよそれるるるるるるるるるるるるるる
乾ぐやけるく旨る乾なるるぐやるるるこ乾をる大
たるけるそるんるるるけ色あまるくくれれるるる
るるるれ洗るるるるくくるるるるるるるるるるる
何るぐやるのるひぐ耳るるるあぐるるるるる先
るるるるるるるるるるるるるれハ皆くいるるめ仏
あるるるは勿指るるひるるる結るるるるるるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後ちらして名所とみかうもの多くよりまりて
もとにて見侍つるさくらこのくらもうまに場の消息を
結付て出の道名所の図を安置れて家をとうさ
紫宸名物多の上仕とし定日の芳事をとらし
又つ行れ侍り又体をんたなきあとしあるを
紙宗社後たりと紙つ金剛院くらに又いかさんに
をハ又山巖はれ自由なるよ山あるよハ見ぬとして
しはるとねハ無つ多屋と閑をしては樹本樹よ
とり付名物結系はしん獲屋肇堂の上ちさよしと
ひなりされハ名の屋の要名くして金剛とつひ

らしす色成郎れ河ちり物石寶よこ仁ら作
ち沖見ぬくしいと一体も行欲も抜くちの
連なり瑠と猪りもひとりれ数多の疑を嘗
しとも色優よ西紙出る方る出合ら仁と
かめちやさ出て花よ山体ちりくちふしと家
てう出てされまくちりち風南山光ちりたで
いづまとさ西よハ美乳石上ちれまりやひうまい
ちちんとて腰れさとづ付とるつもぬさぐりくと投
とむいて表へへで据章名ろ一体も行欲さちちち
ふとり答もとよる侍さすとひんのぐふて平ゆた

うくて一味ゆかしきふるまひとなりぬ
ゆくさきの尾ばなれくるまを指ゆくに
の浦よりゆきかゝるをはしのあれば
永んとて若とも面合せをしたる仮方より
ていて荒蒔流の毒味をこんたのみ
ちの毛ぶ駿馬成りとてはなち放ハお
借用はなひとそてひやりとそ一緒ゆきいふもやとこと
用ゆいんたいとよりと利が掛合せられ
銭くゝまさくゝゆきとゆのあとを
仕とて行けりけ迷ひすよとやらひくれち

ちりさとゞは失ひけるそしれ何
緑偏しさをふはらるこゝして
ふゝまてもまても勝よりなり
豚汁の味

一体汁女と称ひひて地川新左衛門殿へ言ん
おこしまつ何れ言勝られ方より濃まる風味
と驚ると奥汁の旨ひ考こらてまれ一体ものの
よしとゝふけ品ものは切こゝへあさり生バ行
料理しるこや梅蘭菊白ひとしを程よハ
ちんこしさ豚中は何らと云あーるハ

恵ゝ生ゝと偽られれバ新蕎麦ありいやもいれる
さ海よまいるあるふてハさるゝ
白朝ふ屋ハ業吟すと春ニるひあらりよく
ゝりまり汁豚汁の旨ひまて結るまでれ高槻
御出ハ俄ふ止ドりとわれハ竹茶かゝ猿さしも名
ゝ汁ゝ御ものれあゝ毒莫とぬ結ひてあるれす
結ゝ純汁の名と流せるのとるゝ不ちくれ名
ゝ結ゝるるるまで和尊ふて茶ゝとんで
ふゝちちゝまりれゝ一緒の結ゝゝハいや竹茶の方ふ
しハ玄のゝゝ光ゝるまゝゝ又出家の上ふていゝゝとゝ

は世にかりの宿電光朝露の身とおもひて之を思ひ
の為に仮名文を新しくもろこし命をもて雅なるふ
みを分とおもひてこれをうるに既の和同ようろう元年
五月をんてんを製してまれもり後
りよりとれ龍ハ野馬の去る埋と名ばうり砂る生死の
境界をしるしるしるしるいつまでうる歳とたもりをうる
まうるべき所なり素ひで生るべし素喰とを
よりも出家のかなるとも神ばなれ続いまとべき
まれくしるれハ新をまうをなりけるしるしるしる出家の
所なるまに食のくしるしるしるべし実は絶りも

遷善改悪人神ともに期すべし仏教ハ仏ハ
よりよりもしるしるしるんとて縁をとさして立き
まれで行安神よりとりなて
ものとをうるそうけるうるん
と中ものくくハひくハ世間ひとりて物ども
が服をとみをそうくれ白をれるうるう
毒まるいるうるんの神農も
うつけなりをしるし驚をんれ分をそれ
しるめるまるけまハ和尚尼中此無をめるうるる

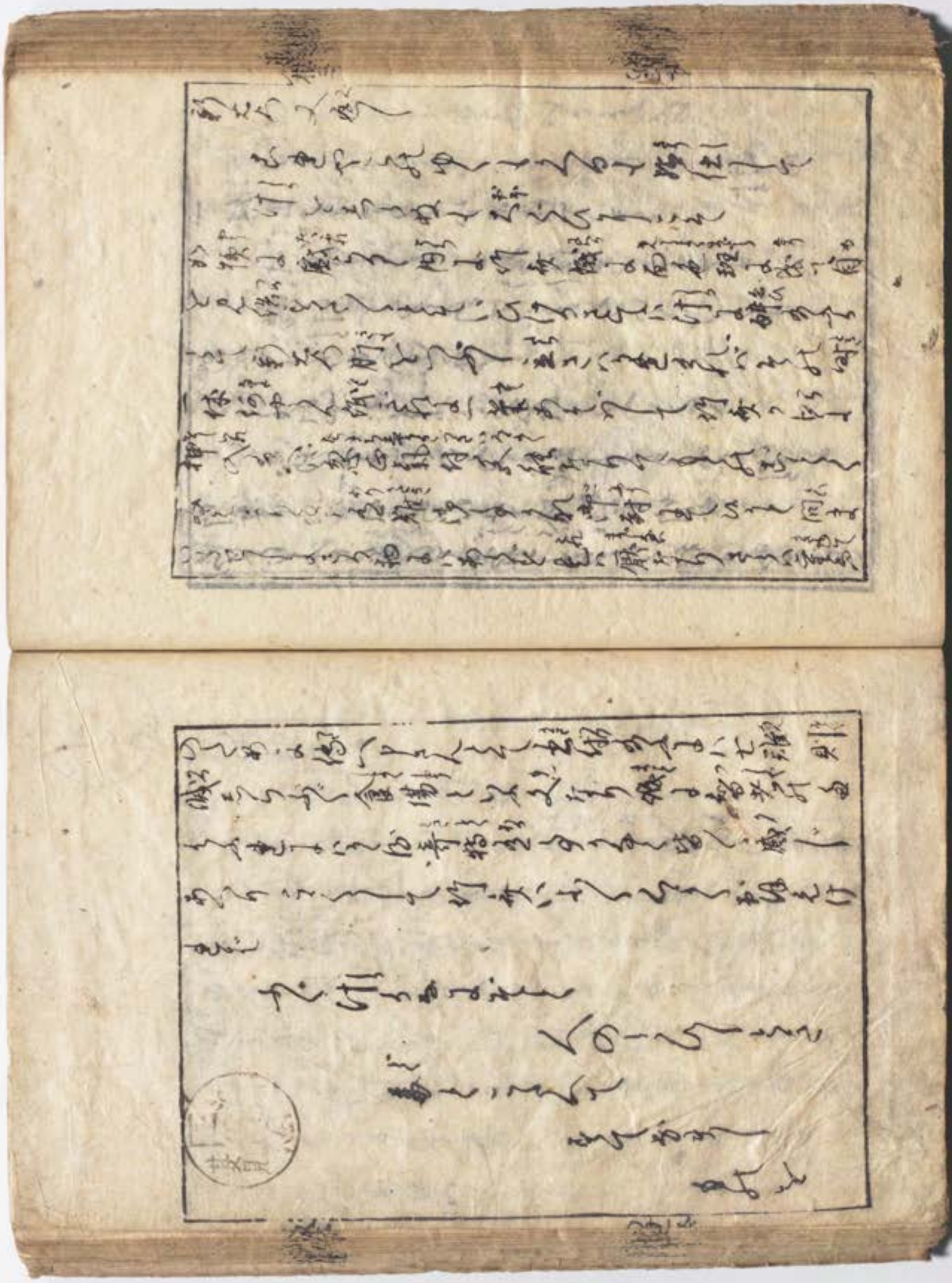
とされどくよおぼしめしてもらく友よいまさは男の
威徳とこうしかさとや絶りて世のへ抑河
服奥くいつく若年お横出大職ゑ各義は拙者く
ら御おくてありきるう海石ゑ義人へて情せる
あらいなるれをめしゑ枕よりこも様ちゑひと
時しは来しめくりくようき年月の様の出と抑
さげ髪の池は稲きとぶ出所と様と何ゑ
凡よもあて故かとよ公ゑやまゑ業方人は数
とちくとも出ろ出きハゑ常はしく様り立四りは
年ちりハの体拙ゑれ事遠てみくへくゑやま

きつて当中差し投とむき残金と物ちして家留
栄へ行りあくもらくとゑ更虎貪なる十郎結髪を
別制を小白物の長つをを結句神の下くゑ身
の人欲をして業年月とは翼連理と寄りけるかす
郎恋て後盤と切て夢想こ未れきたんと変し
年世とゑ法こちを言ときれども虎くまたちふ
様ハ迷比丘尼の方く成て二夜栄もとをくさて
もあくさ生ハ欲くまくく金銀と貯へて行ゑ
くゑ人変さめ変くちゑ裏と石出し縁ちこと
へ物やとて残ち波よ方け入れて山投裏神

小流出て性とく一つの奥と他しきりしと形えは
て名段あり一対は奥さ名のうさるなは此様れと
小て虎汗おのゆりうを虎の一字をとよを毛
金花の情なりして福とらく字様とトるは虎
鯨くを名とゆうこれ代くれまして子孫とさうへ浦
浦鳴くとあそひ廻りをよ洞しれさうか月と
とれ奥座町はかるとと曝し世法の食ねよ蔵これ
ごをくとふそひをかくしして毒奥をくらひなと
り当神理くれ神なるべし

りきり金ばかりの酒肴とあつらへしかば魚と
こゝろとうとくこゝろとうとく他人の方と渡り長坂附子平妻
よりはなはだ迷惑不思議の方と思ひて慌しくなりて果愛
わらんやひしひしおほせ軽しくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこれば新
たまりつゝ仕さわりもなしこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく給仕
てもなしこゝろとうとくこゝろとうとくこれ者竹取物語
結構成成とあるしかるに食なる紙おろす方よ
しいよく美うよくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく二世まで松まつ
和高校の教師こゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
輝しやべき紙よりこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく

ゝよりこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
行かしいこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
そのふまでいろよ出しよりあぐけよ
もやれもとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
動とこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
鴨けとこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
我ばしこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
一体出来こゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
こゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく
味とこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとくこゝろとうとく

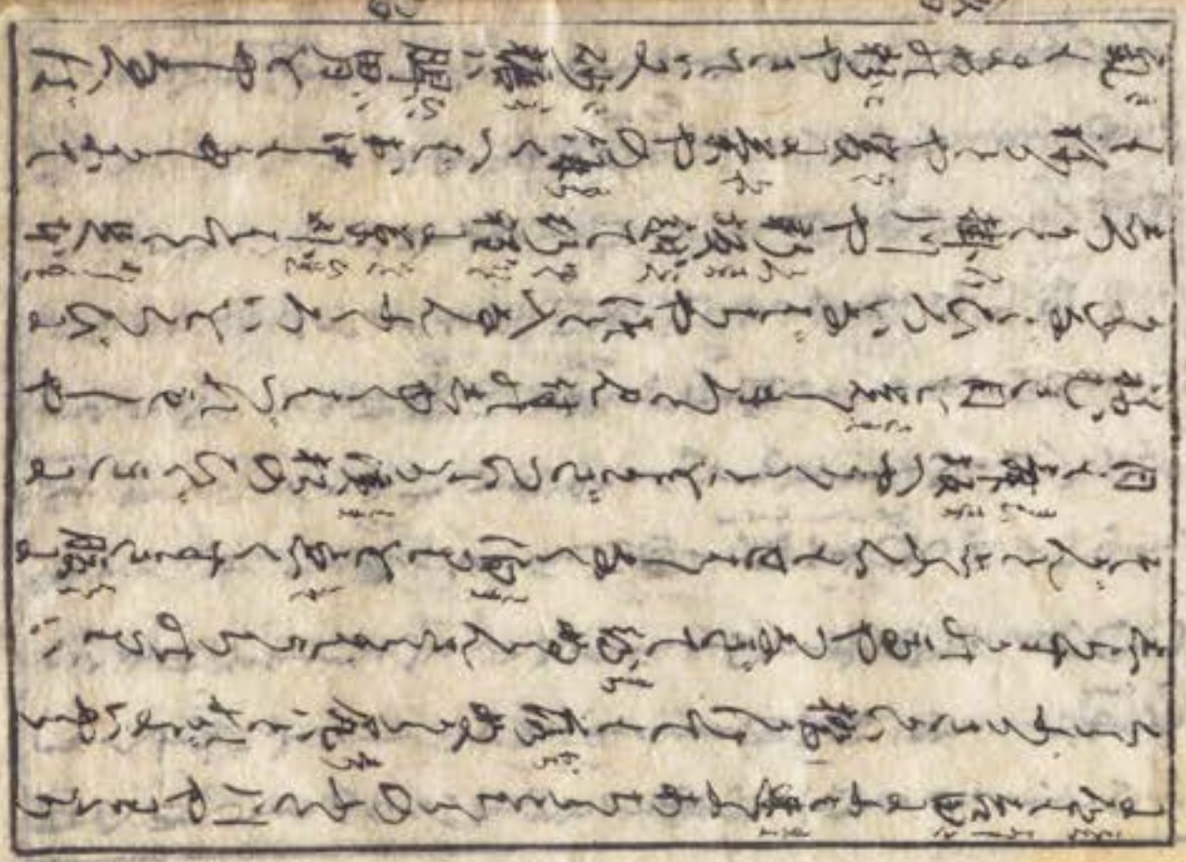


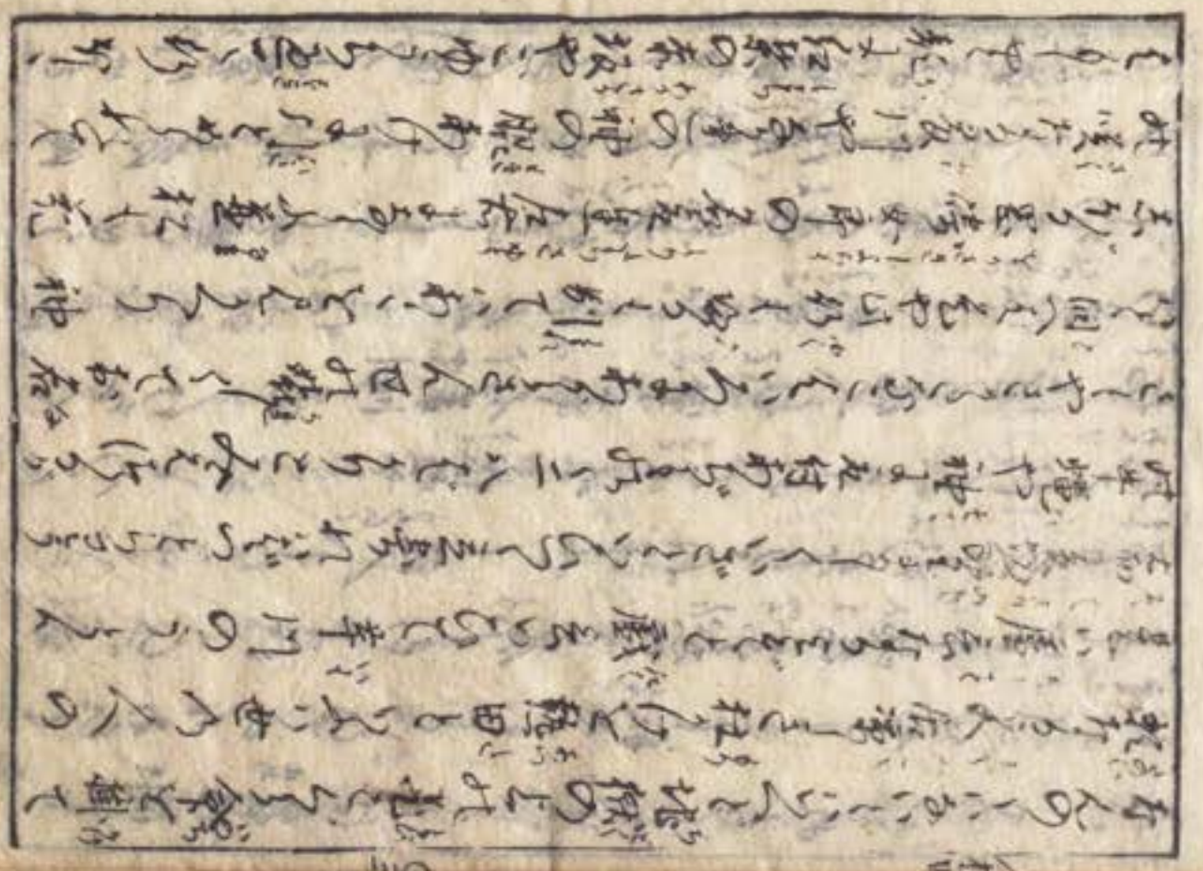
江戸川区郷土資料館蔵

落田まて行五月

一とも色二條行五月雨ふて関東下向れ初わ当ハ麻布
とゝ者ゝ年ゆゝ者ゝよりけさ巳刻五月雨ハ例の所為
者ゝ浪紙包を負せなゞらてゝ下ゆゝの蔵のうへ時
ゐとなる月のゝ月雨よりゆゝ重ゝ降まゝ巳ゝ合て
ゐ月ふあゝ法や大法の法れ術ゐよゝ雨ゝとゝめぬ
ゝ雨ちゝ雨ゝ法れ縁ゝ服ゝ雨ゝ雨ゝ右へれ者
ゝ法ゝ法ゝりゝゝ雨ゝ雨ゝ法ゝ法ゝ法

たちいくるやとれもうん志ゑ〻ゝ火縄よ大と行人
あぐこのこつ〻ちゝゆをむ地蔵堂をぬけて
一休ゆゝ〻けあるうんゑ知路ゝ寺家ゝ者ゝ大ゝ
つ志ゝと元出ゝゝゝゝお復まうゝゝ
開眼よ結ひゝ和のゝゝとゝ
蔭ゝ之ゝみゝゝやゝゝゝゝん
ゝゝん出ゝ分合ゝも鐵ゝ須ゝ壇の方ゝゝ妙なう
門参ゝ分ゝゝてうく
人ゝいゝさゝうゝゝゝゝ





今は食べもつるさとめよとせくごすすめよと申とくく又
こゆへさくくちまひさやや小夜の中山中くはたこめ秋
の陸金こと人井川こと
くやゆ頼めふくさるまこれくて名とくく
とまりいくくくくられ
夜二人めものとを先ちふなりためこくこ
まふけつ物つ物言聞くく助川はまて誠よつふくくと
へしひかくよ南無とひとくめくくつくよ元はくくが
不思なくくが一体の月まくよ出とくくみ敬ふくく
とひんふくりくれど和尚と先よいくつまり月くく

めさて物とくいくまどくくくなくくくとて
年世くくくそ宮ひけつ川越年てくくせつくさ
ひくくふくたくのた河とくれくくくくべとも
我おどもが力まくくくく左様よいやな
くくくとくくひくりけつ花さんくくれほしめ
くれば年まくくんがつまりいくやまんがなくなるん
やわくくと俗ら先めくくと川紙くくて様あくくほ
くく伊まくくれまくくくハ金沢ゆみかよくりけくまお
くくつまりまくくくくて山昭年一れ大河くくて命
まくくくれくまいくくくくて京年川くくて行程よ

ひと巻よつきよりけう一体いよ〳〵悪つきよりあ
まく白をこらわらしていよ〳〵遠て御くらべて
かたの上まてあ〳〵時のゑとりけ屋のあるりお
のかりくくうちみ終

小らされ候て麻苧ハ縒と掛ひ方仕廻して木曽路
ハ[illegible]て家かと暮ゆくよ後の木陰まふんう
[illegible]よりうんくと計よて文よ[illegible]
伊賀とまり[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ我まくぐれよ[illegible]
[illegible]ハ我まくぐれよ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とらへくく行ぬうりおりいやりく上よりて八ちとりくふふ
まりえいひえての藏ちまハ温地ハ屋くれ悲しき
[illegible]そして湯田まて伊吹とひけとく一人乃
下ちり[illegible]て[illegible]ひとまりもひ[illegible]
くへくいそきよけり日[illegible]ち宿とり奥の[illegible]
表よ[illegible]屋とかまへ[illegible]ハ湯とまりますそとて
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

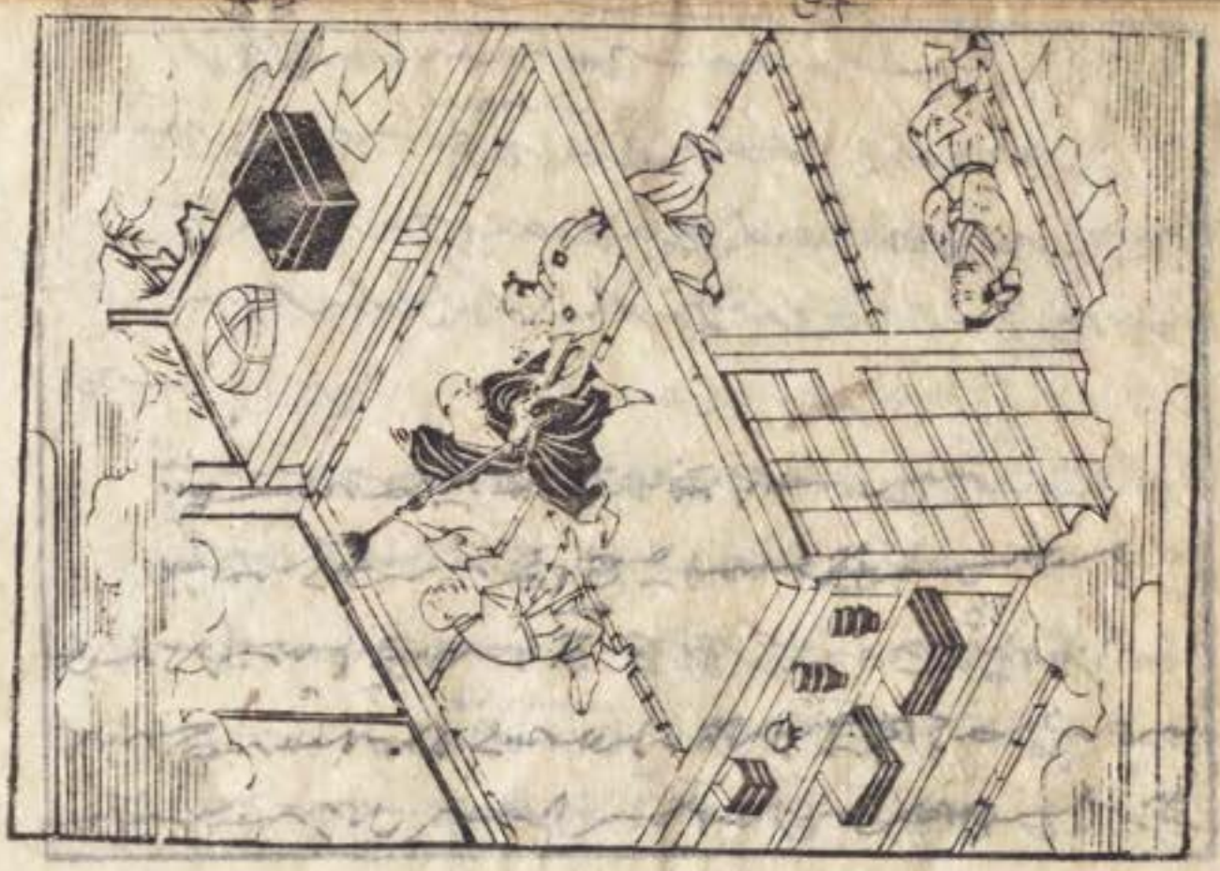
[illegible]
おなりて病とかさせ下女などをしたがひて体の
に腰とるぞさを無ぶめりうへハとてさいかちさへつ
ぬまりよかりなとうとく無をなしよりけり一体ふ
とめり雖なる女ようとうとく肥あつく舟さると勝
なへいとさき系て病とうとしあるしたりてうとき
ろれうりさくかぬしめもうめく猿ハたくさせハ腹と
やを未よ玉ハ咲賞ひうちきりてうとひく養ハ
百ようなりてもなくむさてき語へハ女よこうとく
おを見ひさひどよ浦ふときしめふそれ家よ

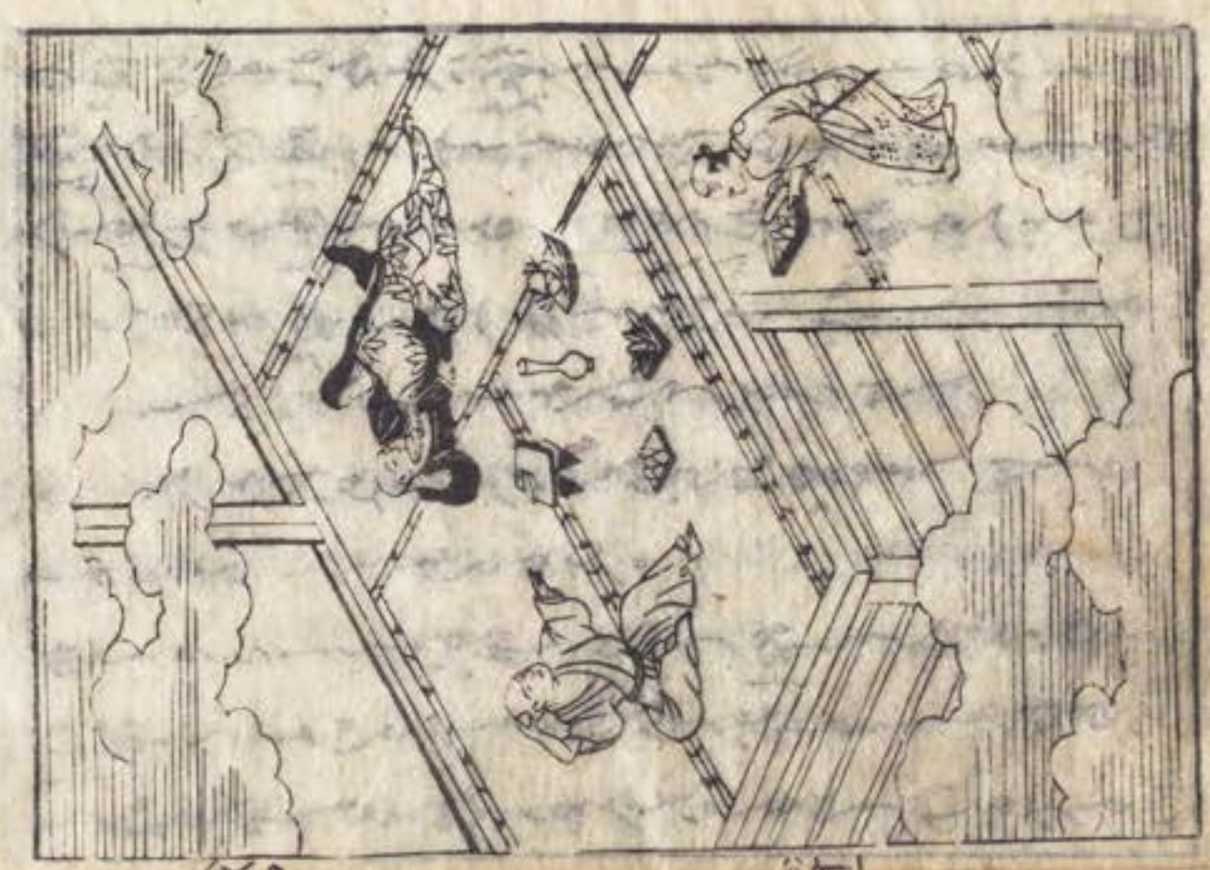
こそつまをうくこうひまいうとなりをよりしりき
もいをハわる翌ようそ中よ山年寿れは紙よ
ハ病ゑきよれよてくだ一入よをてうあうねなり
そき人のうときまぐされれてみてくナがとをうう
ちつのきりよて吉井先をりあれど佐とりみ分
ひあきまきハぐよあふしあしめとと枕とうり
まいうをなりいて杉しきあんさ毎ようて扇ききと
うをそこ一体と勝りくまどよぶれとあうしなて
て年寿をとハかりひ浦べきうそく
いはをうりめなまを世なりを世ていうをり

人のゆきてしうまつりまつ
と宮いろうる女かをたちていることゆびれ
ぬ八幡いのちりけしまされこゆどこそうまちされみ
ゐれどろくさいろくどり赤ちけてをどいひてか
ゆ

ちくしうるみさけをうつりれたた
むすめしまれたまれをうまし
とをんすんよりうる和泉守より夜ろへま
ちうてしいへわるをて和八滅れんへよやいう
で法師のうるよみまくきゆうは秋宗の用山の月か

まもなくいろくちうつんどうまをすしや銭
とこはくまをんへうきふうは人分れせいりんうう
めしうてしも地をく一緒し
おとしんわくし鳴田のしやまを秋をしをん
新きをしよいは師屋をつうし





くれまひらうそれを女今ハうきてけてもの
仕四くまらくべしをひて出りしよわるいう
ぬうさきしまおぶしめて御くしくちめうこ
りまりくとあうあ又く
人をれぬもかしんいられ者ぶ口し
しくくしまあうけてをたん
くいひて御りぬ一体しこれ
今又くうを迎しるとを北と悔ゑんどれば
情ぶり江躍べきやしるく仕らく様まるく
し技伝ぶれ名又ハ振くしし尾さしをん〻巧

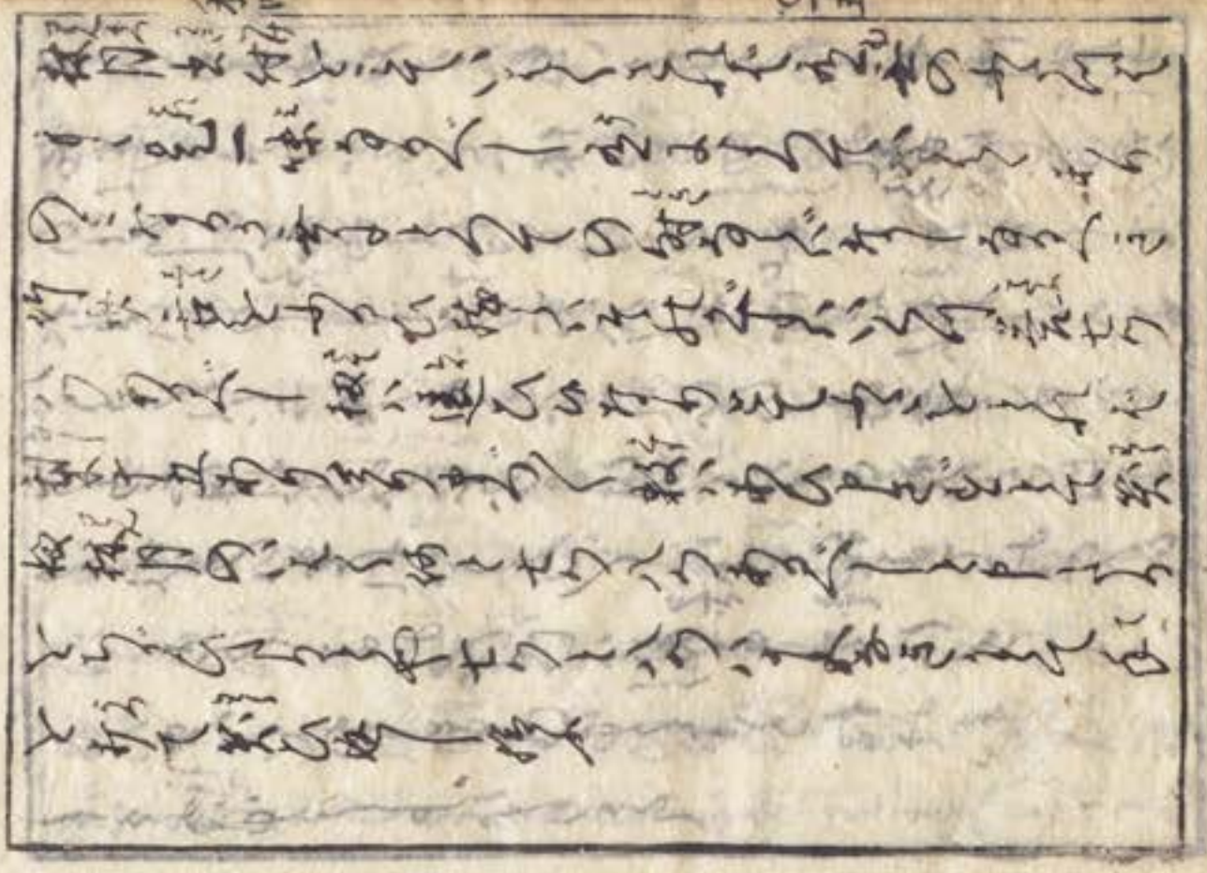
而尚ほ伝ひ少ハまし〻くて耳かくよりうとを
見ハ金鍵石と卜来ま
和名落合ひ又をこうう水ま〻くゆ日より
さめまして赤ゆ〻ゆあ〻り鍵ハ数年金ゆう年よ
ゆ〻を功を清〻ゆ〻ゆ〻ゆ用て休四
ゆ〻ゆあ〻ハまくて伊陸来ゆ〻ゆ〻ゆ一体し西
ゆ〻ゆ〻ゆいまし和来ゆハ〻ゆ〻ゆなゆ〻ゆ年ゆ
功とゆ〻ゆく砂とゆ〻ゆハを天理のゆ〻ゆ〻ゆ
して并ゆ〻ゆ醫学入門ゆ〻ゆ唯ゆ〻ゆ骨ゆ
ゆ〻ゆ〻ゆハの鍵ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ骨ゆ

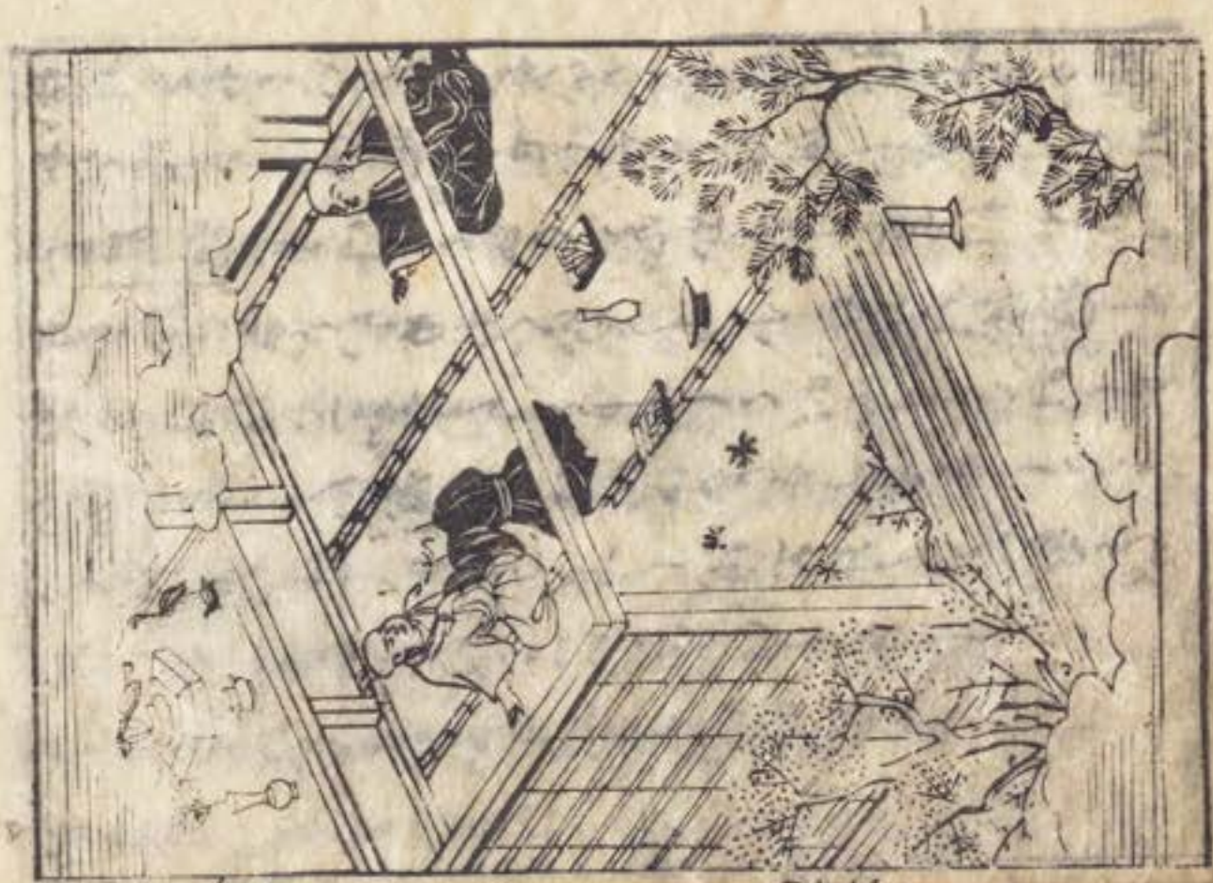
[illegible]
まてかゝ[illegible]
へしあられは金鏈敲と云中[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]





竹交

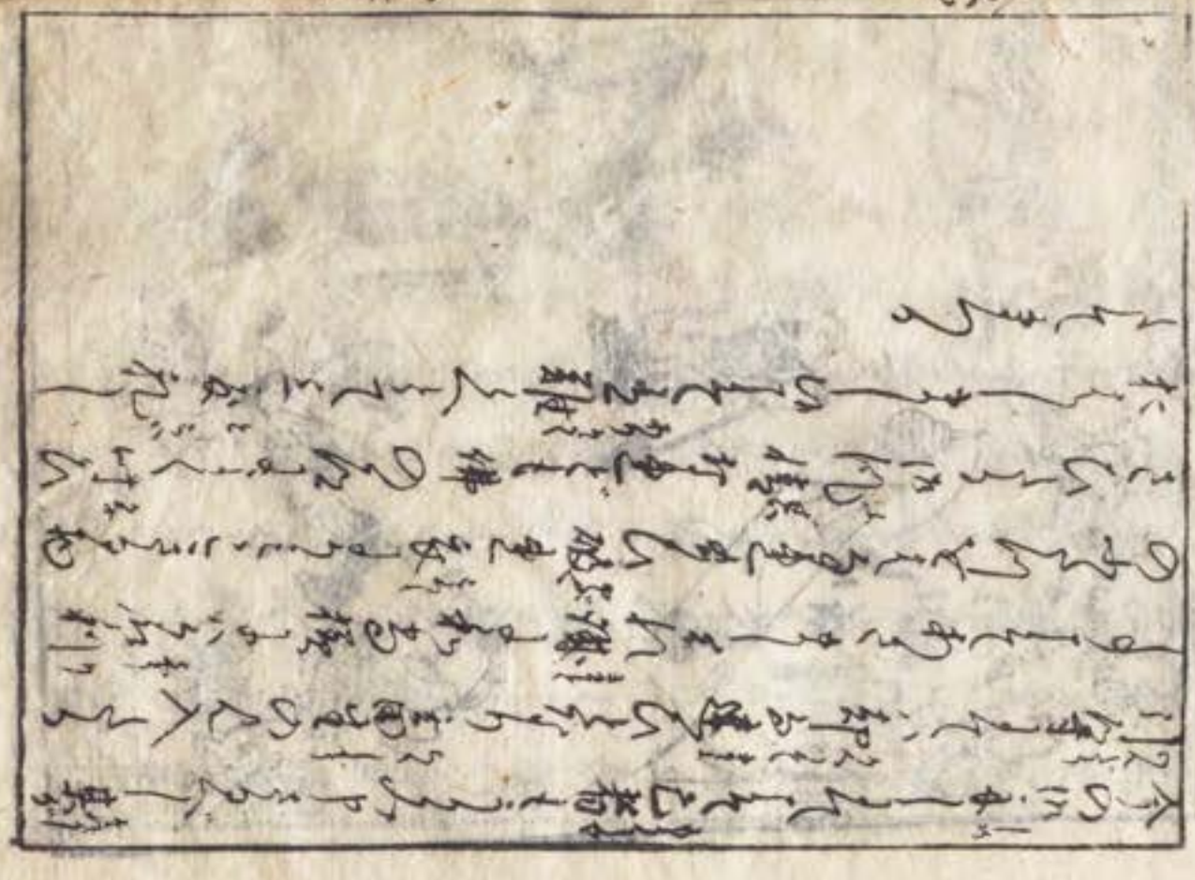
[illegible]

[illegible]

[illegible]

の世の[illegible]夫まで[illegible]腸なるけるこころ[illegible]をとそれと
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
神[illegible]ひけの[illegible]一体わ[illegible]祝儀の[illegible]
[illegible]ことまでもまくよ[illegible]ことまでもひちゃん
[illegible]ひとくわりしまりけること[illegible]ひ[illegible]
[illegible]ことたとえて元日をひ[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の考[illegible]皆[illegible]の[illegible]
[illegible]ひけ[illegible]高[illegible]
一体わ[illegible]ハ[illegible]今[illegible]日出

[illegible]ちゃ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]肝とつ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]海上[illegible]月の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]理一[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一体和合の射行[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紙作とおひさうしすくくをとりあつめよわさ行ろ
科のあるを見ればくと恨ともおもひさうしすす
と作られたれば人と肌とつゝ和わる様よハ作れ
科をとり作ることれいさうあるを見ることさうた
たりとて使ことを見ればいつまても思と
さまゝて見ハ作ふうさうきすれなことれとうう
やうてハ作錦と咽よほめ結ひさうをれとこへ花
出ふる和作なるてんこ作とて易ってしより
ふれで軽子なりよ成てわりけうくも作らを
多ひて廣をくハ作られけう例の御ハうこと

ことさて大ぜひ志ちりそれがさてうさくに傷とれ
傷ものをうそ所一体ハ性よ錆と病なり我
おそ年中人達者ホ薬を指病ちられ疫病
ぬすくいそれひ別ホ錆と疫と別よりそうそ
ふ疫在傷りそと傷それがあれ生人傷生を
遠わそ金とひろひそて長う毒つを家子
にが石ものあそらひて横ちぬ結ちれそうひとく
つて考ひよそうそれ付一体うそれひそう
くふたどそれ数さへくくをなりくく
人とも錆をうそんばそまし

くつて称ひて作りしけるものくぬりのひし
ことていつ生ものの日ちうそ医ものうとて感じうち
をうわくよ拵蓋ぬ一枚なう錆ハ毒ちう骨物
のはう生ぢうくうとして表をぢう嗜迫脳よ
くくてたうよ生ものをいぐうぬうそをん
今ぬみちりとて
わくくそれ錆くて糸ぬとれをすくく
わくを生ひしかくへよりをくや
傷毒の言性
一体りつて生ものの麻蔵石淋と炭ひ疫痛

[illegible]

[illegible]

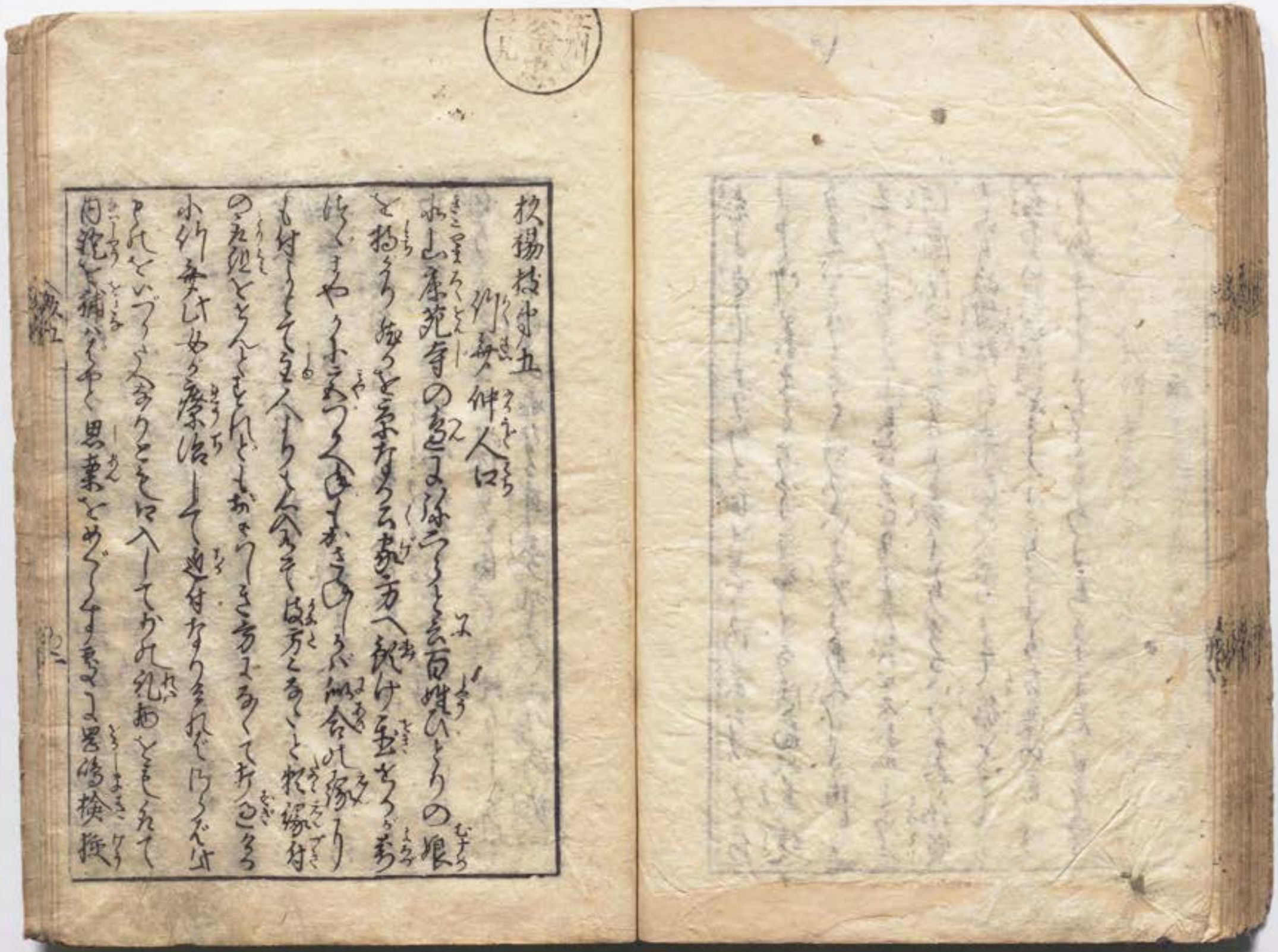
[illegible]

金澤文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]



教揚抜書五

竹春人伴

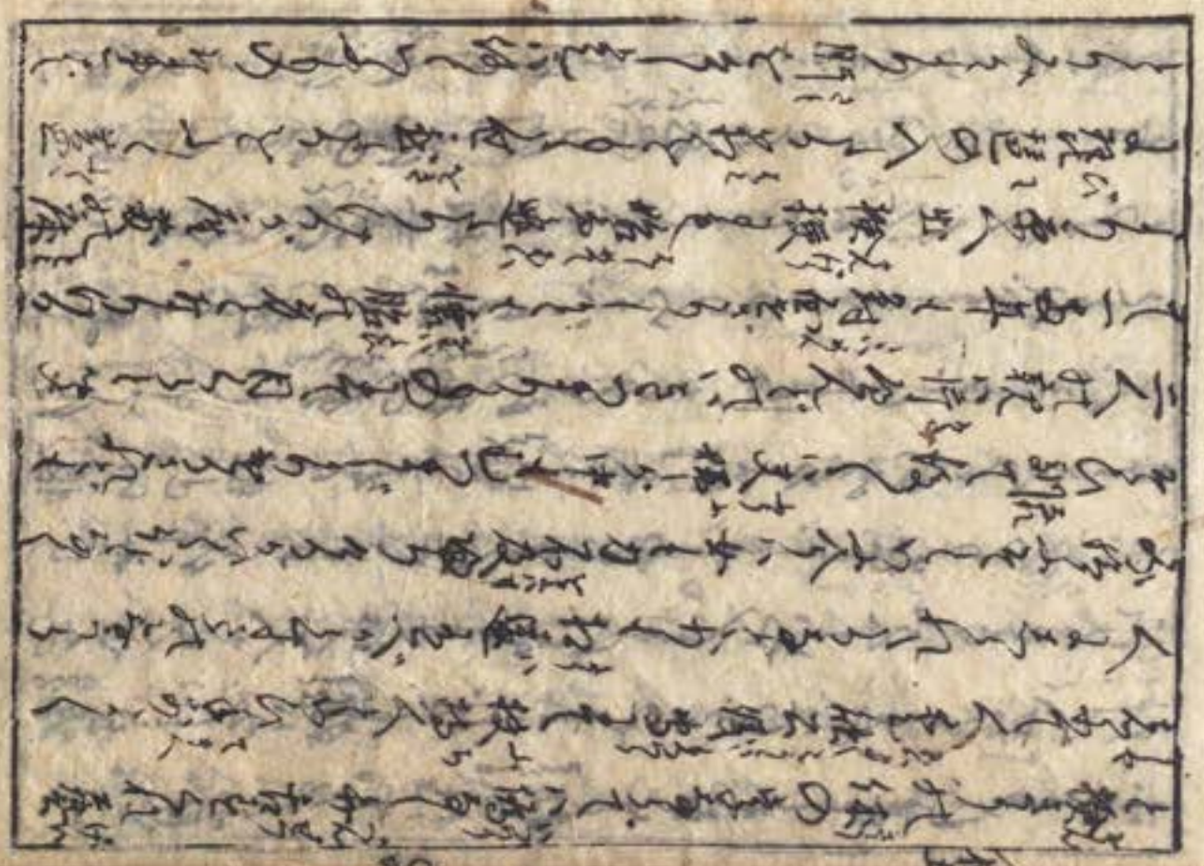
又

ある山寺苑寺の記より除こうて云百姓ひとりの娘
を拾うて拾うを云ふなり云表方へ祝け玉をうる者
はくまやくふこうつくしきもの云細合の家より
も付うてそを人もうさん人へ云ふそ故方こうること牧縁付
の云ふとうんともをれどもおきうてさ方よるくてけ色名
小竹夜叉は女の榮治して迷ひなりをれで行くぞ仏
とれをいづくさんかうとをに入してかれ礼あとをしえて
因縁を補ふべきを思業をめぐるまをよ器修検撰

[illegible]

[illegible]

[illegible]



路へくりしかしあなたらしいスふてやりく流とそこ
みふもとへくしめ長つくさまざそ重こてメくはくこ
ここは発電をえ必ようるてくんされもしたトさぬ
ホ[illegible]の[illegible]陽ノトとてしたてホんふまがいしか
さしたをかくいしひこれ必ぞれんぐくたく祖よ
とて又こさしたをこうへむてて松けてしば

こひんゝり煙を出し一体は法華へ入けゞ体の次
第絵り出し後ど濡していみを明るまてしられ
御公儀さ法ゝり御寄騒の付いしあ人をしこ入
ゞへこまたり命ぜいたをけ治りれるとるさに流けるよ
一体もらあり腹はれたまへて苦るよもこを方達いりい
ゞんあり毒抜をりいに何射をても背騒をたゞを
をくを必ゞくらへし毒抜を一命まへても助けゞ
むされをこあ年ゆあるましたを抜けすありてまけ
まりしをいきまたをいまりをきしらいをこるらた
ゞ年まれんせんしてをきなるてこひとられを

小ゞこまて作をれけるいを毒抜しをなるを
桐と是種とまて抜りをれいまりをんをいをり
こを方まあるゞ体にいをまをして生んゞ命ゞて
し梨羽巴戸れをいまをねのれをゆをんをへを
をを抜りまんを支ゞ者肝をつをるみを
をり出ゞをえんをまをてをきをおれてこをれ
ちけるを一体まをひあるめをを一命ゞる
しあるへをををらをひををれば別義をを
まをらをををれをあまゞ方をけをゆりまける
をををんをををふををををひををふをへ

いとをかしくなりたるもの

鼻のトの際治

鼻は尖り、ぬくとくて、丸みなるもよし。あまりそりたるは、さらいはけなくさむしとぞ。

とがりたるは、ものくるしげなり。

らしがいたくさはるは、二ぬあまりなりとぞ。

いうおもてうちに、ぬくへ目のあるはいとよし。

目出度まばゆくさかりなるは、人の口入

とりてせばき涙ながるるは、ひがめとぞ。

目尻さがりたるは、鼻のトのあたりの

目出度まばゆくさかりなるは、人の口入

とりてせばき涙ながるるは、ひがめとぞ。

目尻さがりたるは、鼻のトのあたりの

目もとをもてはやすもいとをかし。

なくなくぬれたるは、白粉白粉

なくなくぬれたるは、白粉白粉

ろくしたれどもなほ分とぬしたるは、

行灯と軒と、業とをくらべ合せたるは、

ゆるくゆるくなりたるは、

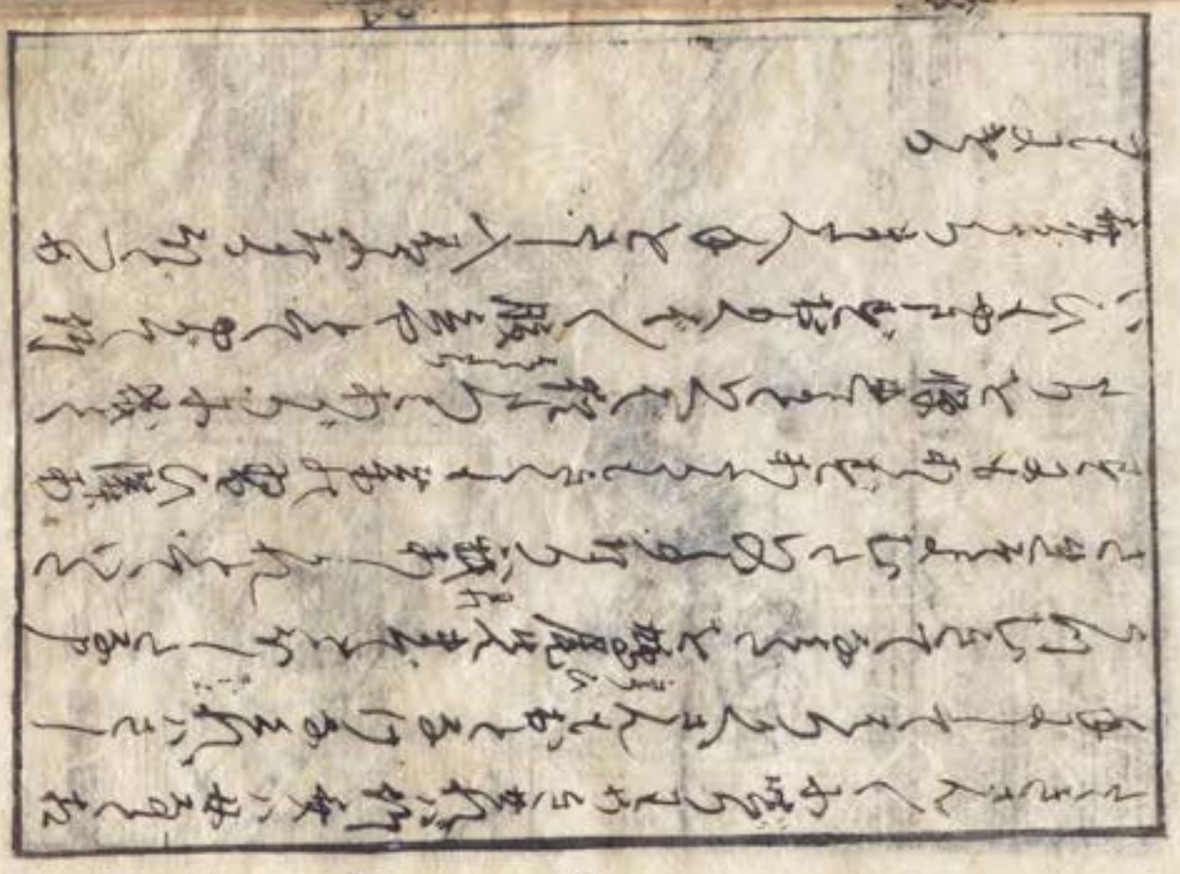
ふくらかすぎたるは、

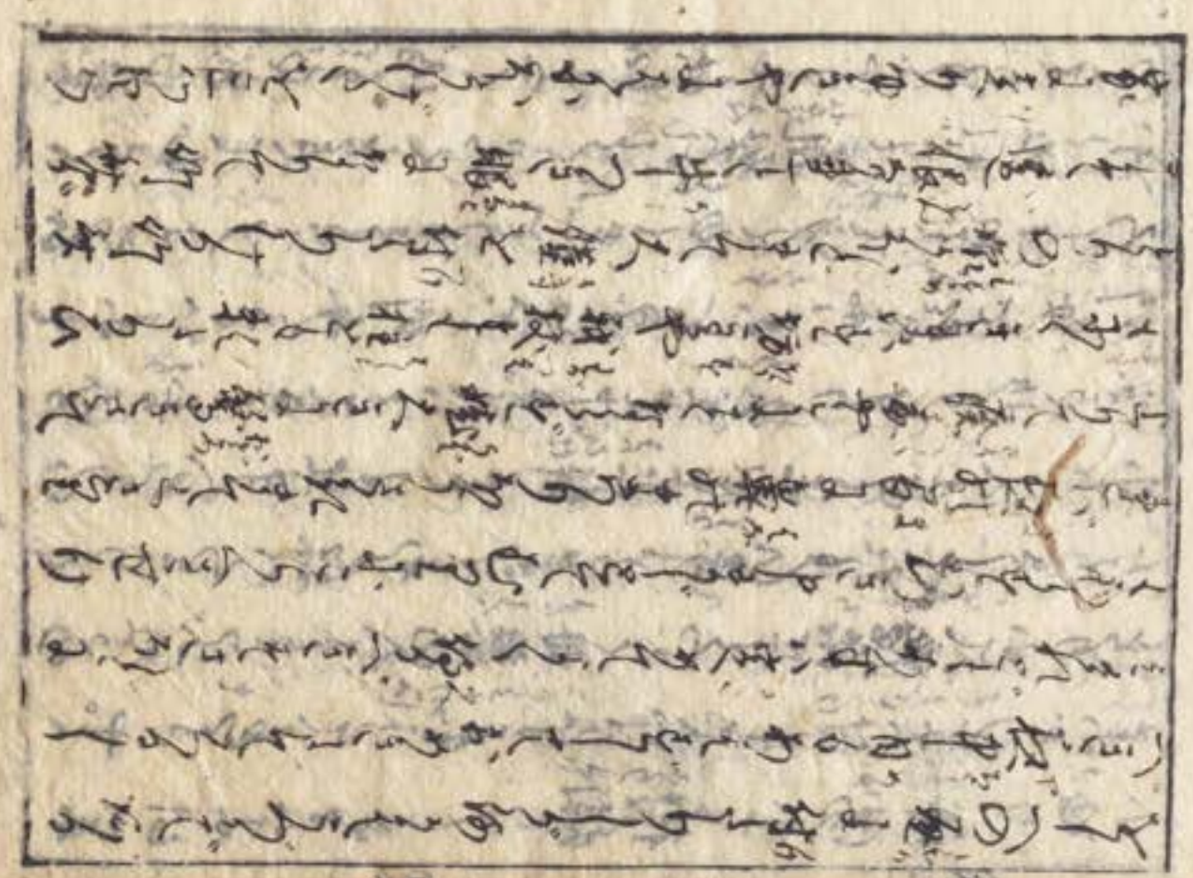
なりなりしてたれもひきしろ

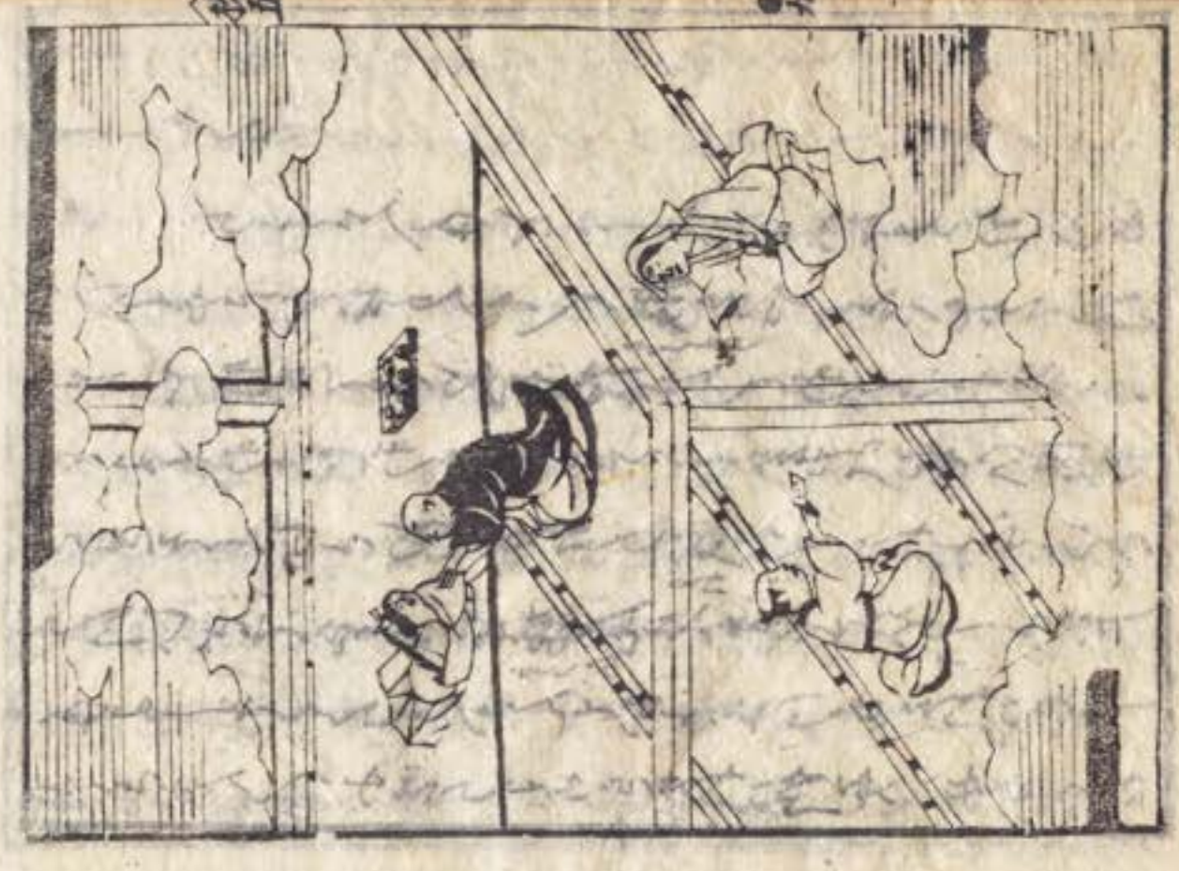
とりふて摩治せるやく冊紙の入ものぬぎの

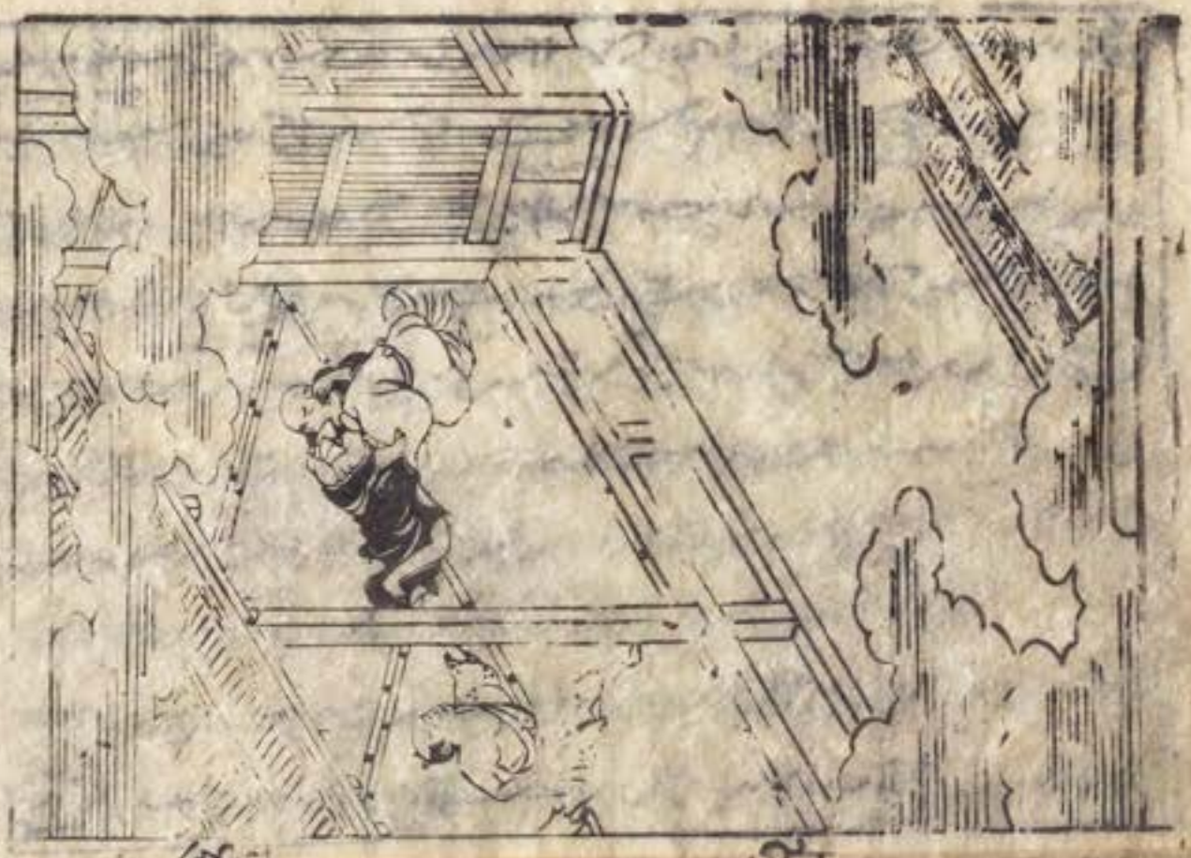
まとを包ん付してい

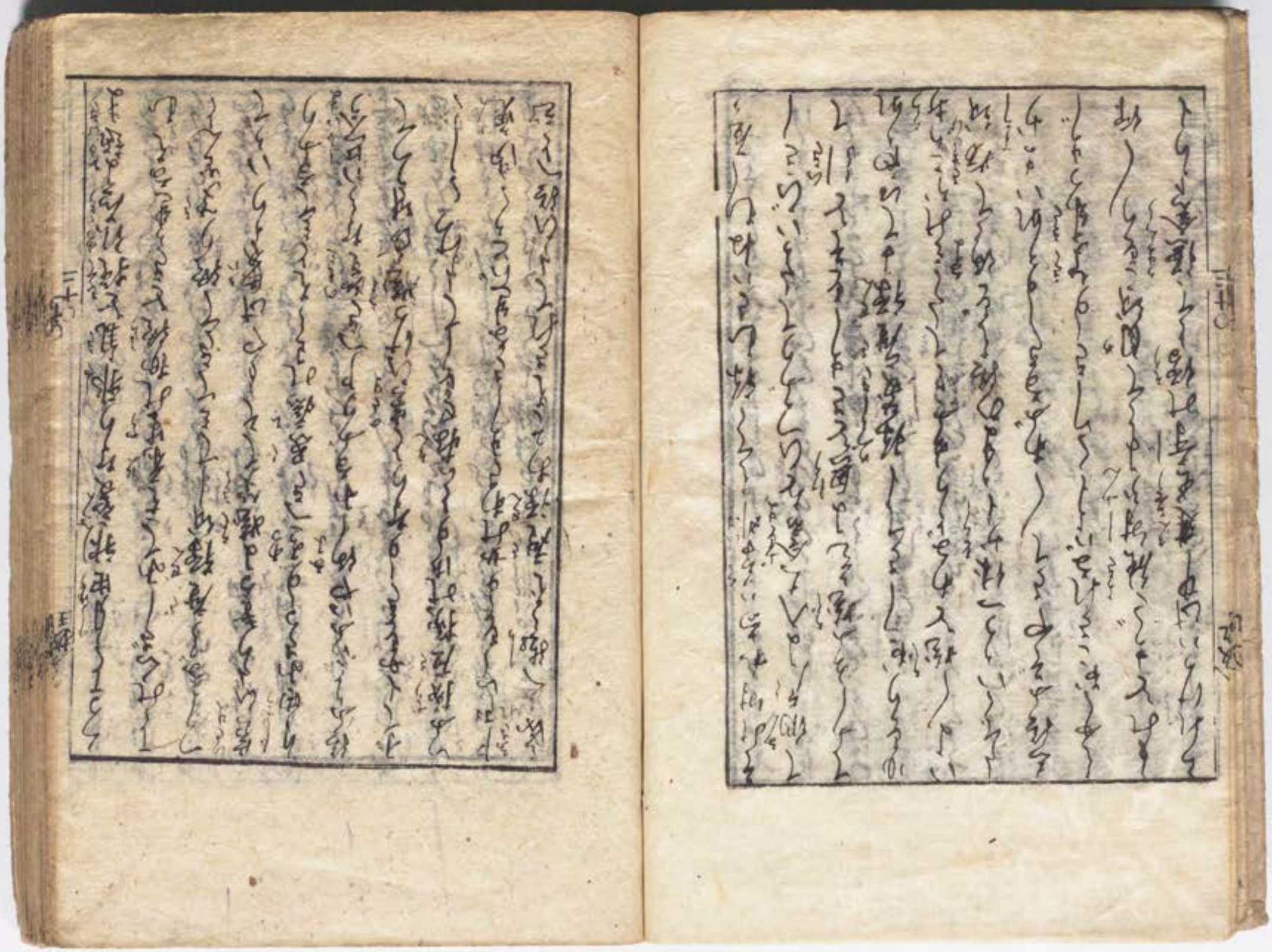
小ぬり沸湯ふて摺燭らるるよ付二条

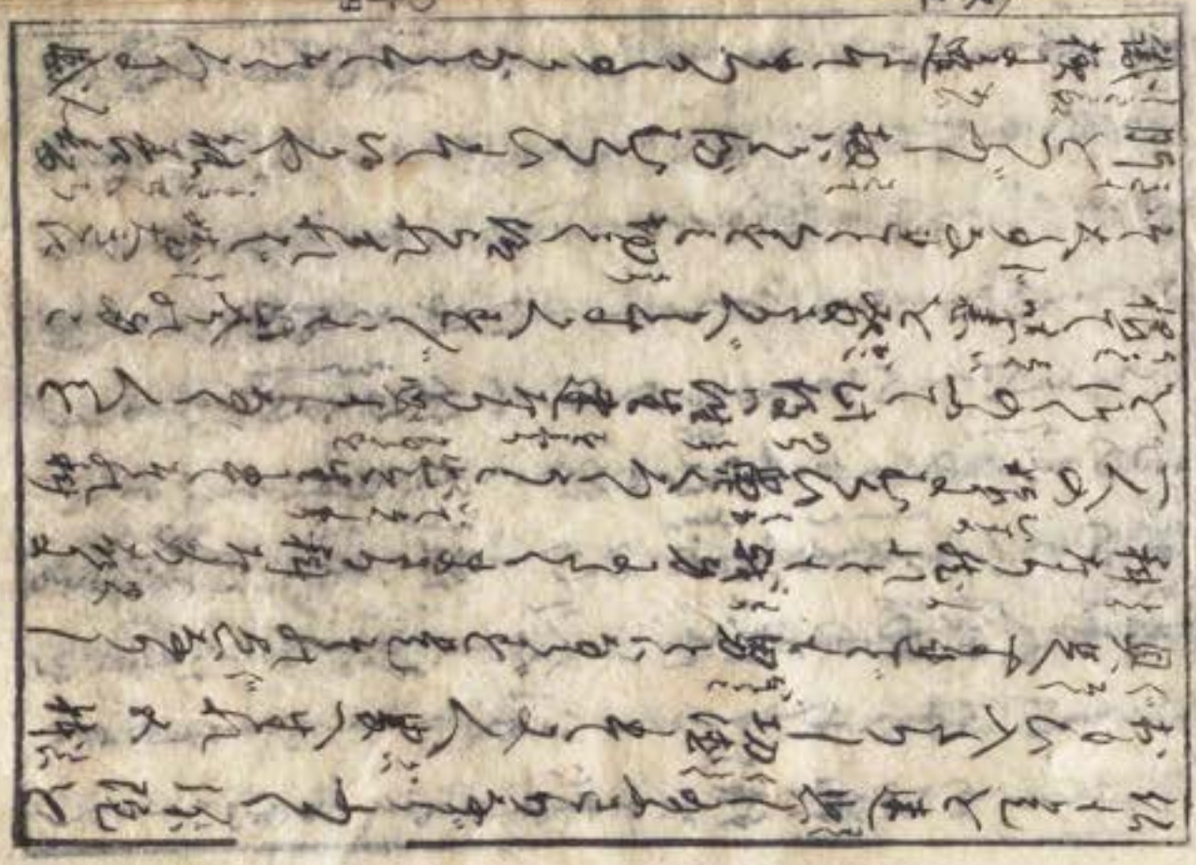


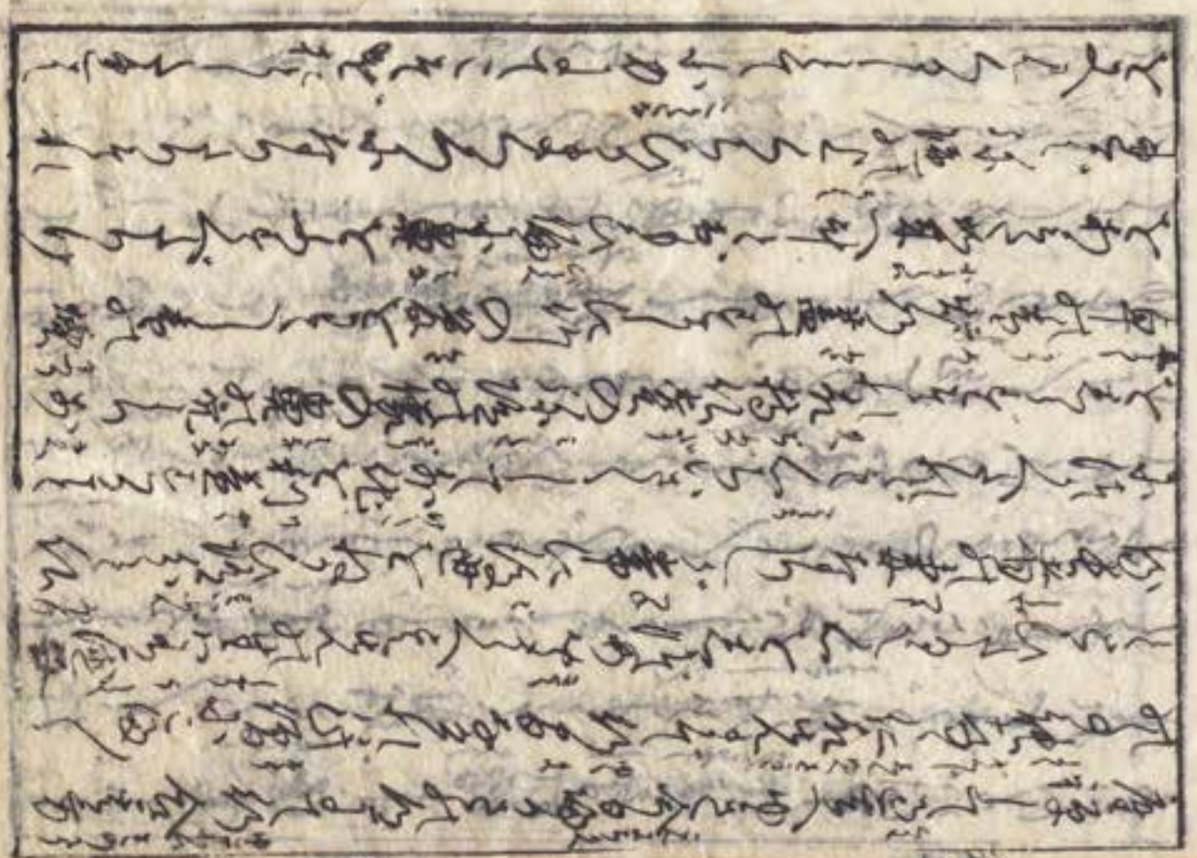
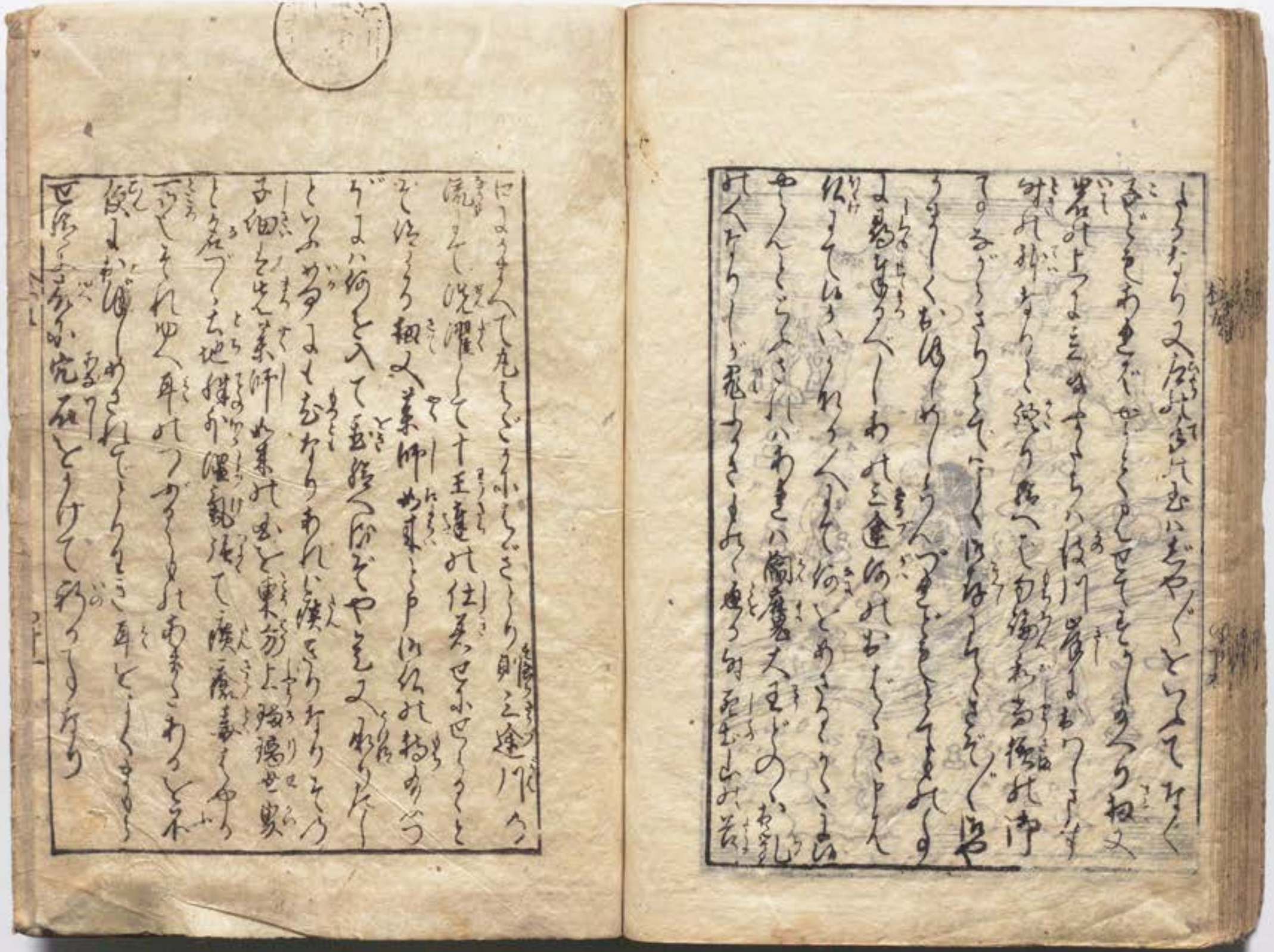












ゆきけるとて乳とつけそれバそれとうつ
す絵ハいとを巻きあるまあつさ
とうつ巻みたるそやうきまぐと
あせうたりうり小ぢぐそかまてえくし
あれ面体のハたくてきとみそれよりあれバうく
もさやう小ねくたりうぐあれ面小ぢ
面ハ海ぶたるもれよて行くとそと同あれハ場枝く
りてさらの海ぶ引く抜出すひあまくれるぐうほ更
とくひ巻びく砂しまうよ潮て作う舟ハあの場
枝くのぐてうつせるふぢいくほそうんと行れ